

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年6月18日

【事業年度】 第68期(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

【会社名】 I D E C 株式会社

【英訳名】 IDEC CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 船 木 俊 之

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市淀川区西宮原2丁目6番64号

【電話番号】 大阪 (06)6398 2500番 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営管理担当 西 山 嘉 彦

【最寄りの連絡場所】 大阪府大阪市淀川区西宮原2丁目6番64号

【電話番号】 大阪 (06)6398 2500番 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営管理担当 西 山 嘉 彦

【縦覧に供する場所】 I D E C 株式会社東京本社
(東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティ))
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月	平成27年 3月
売上高 (百万円)	31,159	32,557	29,343	36,319	42,173
経常利益 (百万円)	2,605	2,785	1,696	2,482	3,160
当期純利益 (百万円)	1,730	1,788	1,859	1,456	2,096
包括利益 (百万円)	1,244	1,888	3,015	2,364	3,828
純資産額 (百万円)	25,255	26,202	27,165	29,029	32,345
総資産額 (百万円)	37,195	38,538	42,496	45,778	49,378
1株当たり純資産額 (円)	806.72	836.67	914.98	959.56	1,062.53
1株当たり当期純利益 (円)	55.62	57.48	61.03	49.14	69.45
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	55.61	57.36	61.01	48.99	69.30
自己資本比率 (%)	67.5	67.5	63.4	62.9	65.1
自己資本利益率 (%)	7.0	7.0	6.9	5.2	6.9
株価収益率 (倍)	15.16	14.27	13.62	19.68	15.09
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,752	2,239	2,204	4,633	1,925
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	137	2,806	3,800	2,493	1,169
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,296	169	1,261	1,929	891
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	7,639	6,836	7,031	7,743	7,995
従業員数 (名)	1,932 (456)	2,040 (504)	2,102 (536)	2,287 (543)	2,109 (603)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数欄の(外書)は臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 第65期より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、第64期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、遡及処理後の数値を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月		平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月
売上高	(百万円)	24,211	25,705	22,046	24,293	25,206
経常利益	(百万円)	1,339	2,160	1,196	1,973	2,503
当期純利益	(百万円)	903	1,516	1,631	1,419	1,947
資本金	(百万円)	10,056	10,056	10,056	10,056	10,056
発行済株式総数	(株)	38,224,485	38,224,485	38,224,485	38,224,485	38,224,485
純資産額	(百万円)	19,250	19,925	19,439	20,586	22,175
総資産額	(百万円)	30,078	31,555	33,755	34,474	36,578
1株当たり純資産額	(円)	616.65	638.55	657.61	683.85	733.04
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	(円) (円)	25.00 (10.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	35.00 (15.00)
1株当たり当期純利益	(円)	29.04	48.75	53.54	47.89	64.52
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	29.04	48.65	53.52	47.74	64.39
自己資本比率	(%)	63.8	63.0	57.4	59.5	60.6
自己資本利益率	(%)	4.7	7.8	8.4	7.1	9.1
株価収益率	(倍)	29.03	16.82	15.52	20.19	16.24
配当性向	(%)	86.1	61.5	56.0	62.6	54.2
従業員数	(名)	782 (261)	804 (299)	814 (302)	794 (308)	783 (319)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 第65期より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、第64期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、遡及処理後の数値を記載しております。

2 【沿革】

年月	変遷の内容
昭和20年11月	和泉商会創業 電気器具の小売、卸売業開始
22年3月	和泉電気株式会社(大阪市中央区)設立 開閉器の生産、販売開始
44年4月	京都事業所(京都府長岡京市)完成 操業開始
47年12月	アイデックコントロールズ株式会社(現・I D E C システムズ&コントロールズ株式会社)を設立(現・連結子会社)
50年10月	I D E C CORPORATION(米国)を設立(現・連結子会社)
51年6月	I D E C Elektrotechnik GmbH(ドイツ)を設立(現・連結子会社)
57年7月	CI導入「I D E C」商標決定 英文社名変更
11月	大阪証券取引所市場第2部に株式を上場
58年9月	台湾愛徳克股份有限公司(台湾)を設立(現・連結子会社)
12月	株式会社アイ・イー・エス(現・I D E C ロジスティクスサ - ビス株式会社)を設立(現・連結子会社)
59年6月	福岡事業所(兵庫県神崎郡)完成 操業開始
12月	本社事務所(大阪市淀川区)設置 本社機能を移転
60年8月	I D E C CANADA, LTD.(カナダ)を設立(現・連結子会社)
62年3月	I D E C Electronics Limited(英国)を設立(現・連結子会社)
平成元年3月	東京証券取引所市場第2部に株式を上場
2年10月	東京証券取引所、大阪証券取引所市場第1部に指定替え
3年3月	筑波事業所(茨城県竜ヶ崎)第一期工事完成
4年8月	台湾和泉電気股份有限公司(台湾)を設立(現・連結子会社)
10月	アイデック技術研究センター(大阪市淀川区)を開設
11月	滝野事業所(兵庫県加東市)第二期工事完成
6年5月	浜松物流センター(静岡県浜松市)完成 操業開始
7年8月	I D E C IZUMI (H.K.) CO., LTD.(香港)(現・I D E C HONG KONG CO., LTD.)を設立(現・連結子会社)
8年7月	I D E C Australia Pty, Ltd.(オーストラリア)を設立(現・連結子会社)
10年4月	竜野物流センター(兵庫県龍野市)完成 操業開始
12年2月	I D E C IZUMI ASIA PTE LTD.(シンガポール)を設立(現・連結子会社)
13年5月	株式会社朝日制御(現・I D E C エンジニアリングサービス株式会社)を設立(現・連結子会社)
14年7月	蘇州和泉電気有限公司(中華人民共和国)を設立(現・連結子会社)
11月	愛徳克電気貿易(上海)有限公司(中華人民共和国)を設立(現・連結子会社)
16年10月	I D E C IZUMI (H.K.) CO., LTD.(香港)を合併で設立(現・連結子会社)
17年6月	和泉電気自動化制御(深圳)有限公司を合併で設立(現・連結子会社)
11月	I D E C株式会社へ社名を変更
18年5月	和泉電気(北京)有限公司を合併で設立(現・連結子会社)
20年3月	I D E C SALES OFFICE(大阪市淀川区)開設
23年1月	大阪事業所(大阪市淀川区)開設
24年1月	浜松事業所改修完了
4月	I D E C ASIA(THAILAND) CO., LTD.を設立(現・連結子会社)
25年11月	愛徳克電子科技(上海)有限公司(中華人民共和国)を設立(現・連結子会社)
12月	I D E C DATALOGIC株式会社(現・I D E C AUTO-ID SOLUTIONS株式会社)の株式取得(現・連結子会社)
12月	データロジックADC株式会社の株式取得(平成26年4月、吸収合併により、I D E C AUTO-ID SOLUTIONS株式会社に統合)
26年5月	株式会社コーネット及び株式会社コーネットシステムの株式取得(平成27年4月、吸収合併により、株式会社コーネットに統合(現・連結子会社))

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社24社（国内6社、海外18社）及び持分法適用関連会社1社で構成され、その主な事業内容は、制御機器製品、制御装置及びF Aシステム製品、制御用周辺機器製品、防爆・防災関連機器製品、その他の製品の製造及び販売であります。製造については当社が主に行っており、アジア・パシフィックの海外子会社3社より一部の製品及び部品の供給を受けております。国内市場への販売は当社及び国内グループ会社が行っており、海外市場への販売は、主にその地域の海外子会社により行っております。現地法人は、それぞれ独立した経営単位であり、各地域に適した戦略を立案し、事業戦略を展開しております。したがって、当社グループは、製造・販売体制を基礎とした地域別のセグメントを構成しております。

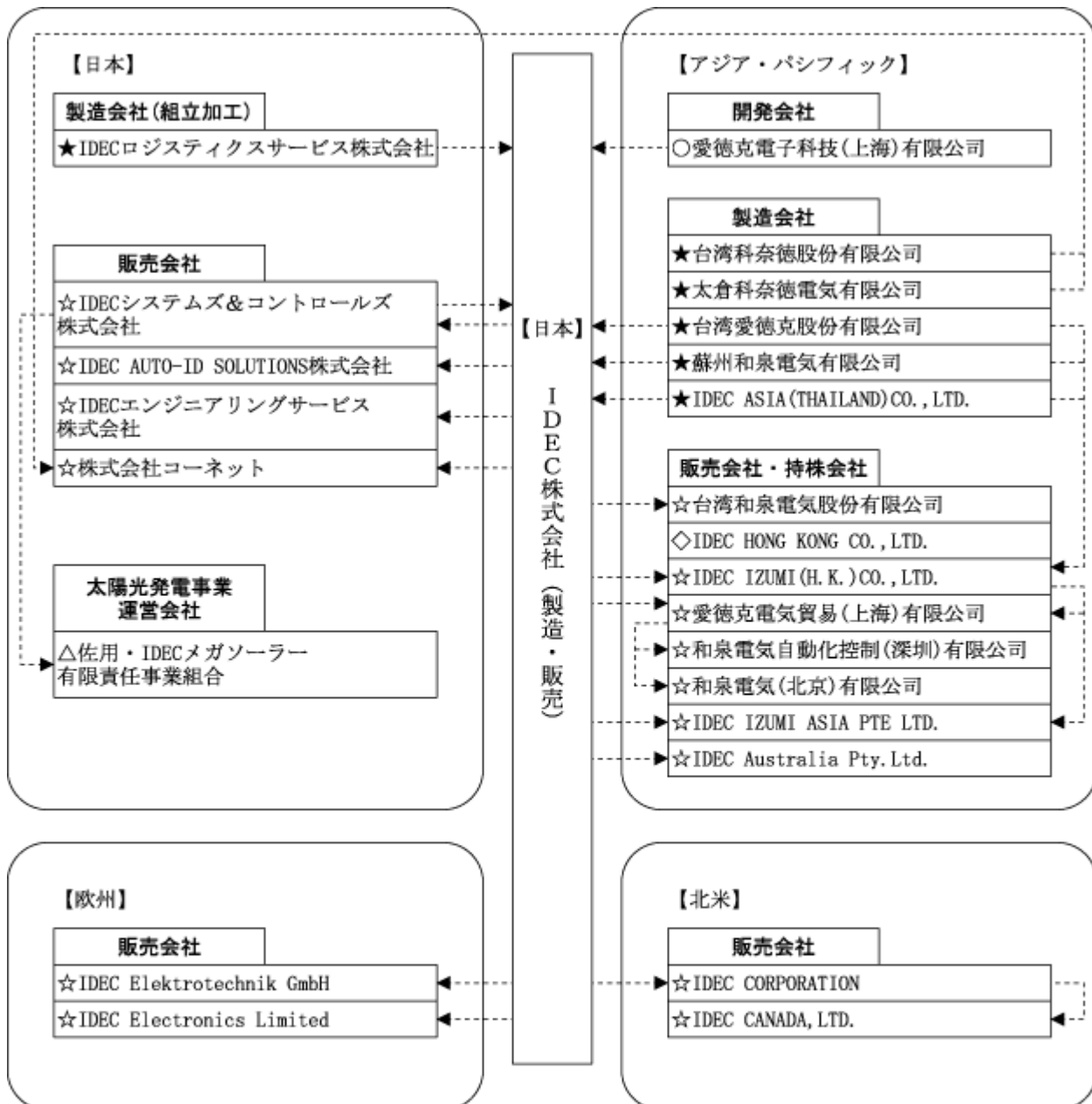
製品種類及び製品種類の内容と、それに関連する主な関係会社及びセグメントは次のとおりであります。

製品種類	製品種類の内容	主な関係会社名		セグメント名	
制御機器製品	スイッチ、表示灯、リレー、タイマ、産業用LED関連製品、センサ、サーキットプロテクタなど	販売会社	IDECエンジニアリングサービス株式会社 株式会社コーネット	日本	
			IDEC CORPORATION IDEC CANADA,LTD.	北米	
			IDEC Elektrotechnik GmbH IDEC Electronics Limited	欧州	
			IDEC Australia Pty.Ltd. 台湾和泉電気股份有限公司 IDEC IZUMI(H.K.)CO.,LTD. IDEC IZUMI ASIA PTE LTD. IDEC ASIA PTE LTD. 愛徳克電気貿易(上海)有限公司 和泉電気自動化控制(深圳)有限公司 和泉電気(北京)有限公司 台湾愛徳克股份有限公司	アジア・パシフィック	
		製造会社	IDEC ASIA(THAILAND)CO.,LTD. 台湾愛徳克股份有限公司 台湾科奈徳股份有限公司 蘇州和泉電気有限公司 太倉科奈徳電気有限公司	アジア・パシフィック	
			販売会社	IDECエンジニアリングサービス株式会社 IDEC AUTO-ID SOLUTIONS株式会社	日本
				IDEC CORPORATION IDEC CANADA,LTD.	北米
				IDEC Elektrotechnik GmbH IDEC Electronics Limited	欧州
				IDEC Australia Pty.Ltd. 台湾和泉電気股份有限公司 IDEC IZUMI(H.K.)CO.,LTD. IDEC IZUMI ASIA PTE LTD. 愛徳克電気貿易(上海)有限公司 和泉電気自動化控制(深圳)有限公司	アジア・パシフィック
				制御装置及びF Aシステム製品	プログラマブル表示器、プログラマブルコントローラ、F Aコンピュータシステム、伝送システム、コントロールパネル、バーコードシステムなど
IDEC ASIA(THAILAND)CO.,LTD. 台湾愛徳克股份有限公司 台湾科奈徳股份有限公司 蘇州和泉電気有限公司 太倉科奈徳電気有限公司	アジア・パシフィック				

製品種類	製品種類の内容	主な関係会社名		セグメント名		
			和泉電気(北京)有限公司 台湾愛徳克股份有限公司			
		開発会社	愛徳克電子科技(上海)有限公司	アジア・ パシフィック		
制御用周辺機器製 品	スイッチング電源、 端子台、コネクタ、 ソケット、 汎用コントロールボックス など	販売会社	IDECエンジニアリングサービス株式会社	日本		
			IDEC CORPORATION IDEC CANADA,LTD.	北米		
			IDEC Elektrotechnik GmbH IDEC Electronics Limited	欧州		
			IDEC Australia Pty.Ltd. 台湾和泉電気股份有限公司 IDEC IZUMI(H.K.)CO.,LTD. IDEC IZUMI ASIA PTE LTD. 愛徳克電気貿易(上海)有限公司 和泉電気自動化控制(深圳)有限公司 和泉電気(北京)有限公司 台湾愛徳克股份有限公司	アジア・ パシフィック		
		製造会社	IDEC ASIA(THAILAND)CO.,LTD. 台湾愛徳克股份有限公司 蘇州和泉電気有限公司	アジア・ パシフィック		
		防爆・ 防災関連機器製品	防爆機器、防災機器、 防犯機器及び 関連システムなど	販売会社	IDECエンジニアリングサービス株式会社	日本
					台湾和泉電気股份有限公司 IDEC IZUMI(H.K.)CO.,LTD. IDEC IZUMI ASIA PTE LTD. 愛徳克電気貿易(上海)有限公司 台湾愛徳克股份有限公司	アジア・ パシフィック
販売会社	IDECエンジニアリングサービス株式会社 IDECシステムズ&コントロールズ株式会社				日本	
	台湾和泉電気股份有限公司 台湾愛徳克股份有限公司				アジア・ パシフィック	
その他の製品	微細気泡水製造装置、 セキュリティシステム製品、 マーキングシステム製品、金 型、 商業用LED関連製品 など	製造会社	台湾愛徳克股份有限公司	アジア・ パシフィック		

企業集団の系統図

以上に述べた企業集団の系統図は次のとおりであります。



- ☆ 連結販売子会社
- ★ 連結製造子会社
- 連結開発子会社
- ◇ 持株会社
- △ 関連会社で持分法適用会社
- > 製品の流れ及び役務の提供等

4 【関係会社の状況】

セグメント名及び会社名	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 日本 I D E Cシステムズ &コントロールズ株式会社 (注)8	大阪市淀川区	170	セキュリティシステ ムの輸入・販売、産 業用太陽光発電シス テム設備の提供	100.0	当社製品の販売 商品の仕入 役員兼任2名 (うち当社従業員2名)
I D E Cロジスティクス サービス株式会社	兵庫県たつの市	10	制御機器の艤装組 立、梱包・配送の受 託業務	100.0	艤装組立の委託 役員兼任5名 (うち当社従業員5名)
I D E Cエンジニアリング サービス株式会社	名古屋市南区	10	制御機器の販売	100.0	当社製品の販売 役員兼任4名 (うち当社従業員4名)
I D E C AUTO-ID SOLUTIONS 株式会社	大阪市淀川区	300	自動認識機器の販売	100.0	当社製品の販売 役員兼任2名 (うち当社従業員2名)
株式会社コーネット (注)9	愛知県一宮市	33	電子機器・制御機器 の販売	100.0	当社製品の販売 役員兼任5名 (うち当社従業員5名)
株式会社コーネットシステム	愛知県一宮市	10	制御設計・PLC設計開 発、ソフトウェア開 発	100.0	当社製品の開発
北米 I D E C CORPORATION (注)8	Sunnyvale Calif. U.S.A.	千US\$ 4,800	制御機器の販売	100.0	当社製品の販売 役員兼任2名
I D E C CANADA, LTD. (注)1	Ontario CANADA	千CAN\$ 50	制御機器の販売	100.0 (100.0)	当社製品の販売 役員兼任1名
欧州 I D E C Elektrotechnik GmbH	Wendenstrasse, Hamburg, GERMANY	千EUR 102	制御機器の販売	100.0	当社製品の販売 役員兼任1名
I D E C Electronics Limited	Basingstoke, Hampshire RG248WA, U.K.	千STG 750	制御機器の販売	96.0	当社製品の販売 運転資金の貸付 役員兼任1名
アジア・パシフィック I D E C Australia Pty.Ltd. (注)1	Rowville Victoria AUSTRALIA	千A\$ 1,125	制御機器の販売	100.0 (100.0)	当社製品の販売 役員兼任1名
I D E C IZUMI ASIA PTE LTD.	Dragon Land Building SINGAPORE	千SP\$ 1,000	制御機器の販売	100.0	当社製品の販売 役員兼任1名
I D E C ASIA(THAILAND)CO.,LTD.	Saraburi Province, Thailand	千THB 200,000	制御機器の製造・販 売	100.0	当社製品の製造 役員兼任2名
台湾愛徳克股份有限公司 (注)2	台湾省 高雄県仁武郷	千NT\$ 60,000	精密金型及び成形部 品の製造・販売なら びに制御機器・部品 の製造・販売	100.0	制御用部品の販売 トランス、ソケットの購入 役員兼任4名 (うち当社従業員3名)
台湾和泉電気股份有限公司	台湾省台北市	千NT\$ 15,000	制御機器の販売	70.0	当社製品の販売 役員兼任4名 (うち当社従業員3名)
台湾科奈徳股份有限公司 (注)7	台湾省台北市	千NT\$ 1,000	電子機器・制御機器 の製造	100.0 (100.0)	当社製品の製造
蘇州和泉電気有限公司 (注)3	中華人民共和国 江蘇省蘇州市	千US\$ 5,850	制御機器の製造・販 売	100.0 (25.2)	当社製品の製造 役員兼任3名 (うち当社従業員2名)
I D E C HONG KONG CO.,LTD.	中華人民共和国 香港	千HK\$ 5,000	持株会社	100.0	役員兼任2名 (うち当社従業員1名)
I D E C IZUMI(H.K.)CO.,LTD. (注)4	中華人民共和国 香港	千HK\$ 15,600	制御機器の販売	100.0 (100.0)	当社製品の販売 役員兼任3名 (うち当社従業員2名)

セグメント名及び会社名	住所	資本金又は出資金(百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
愛徳克電気貿易(上海)有限公司(注)5	中華人民共和国上海市	千US\$300	制御機器の販売	100.0(100.0)	当社製品の販売 役員兼任2名 (うち当社従業員1名)
和泉電気自動化制御(深圳)有限公司(注)5	中華人民共和国深圳市	千US\$200	制御機器の販売	100.0(100.0)	当社製品の販売 役員兼任2名 (うち当社従業員1名)
和泉電気(北京)有限公司(注)5	中華人民共和国北京市	千US\$200	制御機器の販売	100.0(100.0)	当社製品の販売 役員兼任2名 (うち当社従業員1名)
愛徳克電子科技(上海)有限公司(注)6	中華人民共和国上海市	千RMB2,000	電子製品のシステム開発	100.0(100.0)	当社製品の開発 役員兼任1名 (うち当社従業員1名)
太倉科奈徳電気有限公司(注)7	中華人民共和国江蘇省太倉市	千RMB1,247	電子機器・制御機器の製造	100.0(100.0)	当社製品の製造
(持分法適用関連会社) 佐用・I D E C メガソーラー 有限責任事業組合	兵庫県佐用郡佐用町	300	太陽光発電所の設置 運営	50.0	当社製品の設置運営 組合員兼任1名

- (注) 1 I D E C CANADA,LTD.、I D E C Australia Pty.Ltd.の議決権に対する所有割合欄の()内数字は間接所有割合(内数)であり、間接所有の会社はI D E C CORPORATIONであります。
- 2 台湾愛徳克股份有限公司は特定子会社であります。
- 3 蘇州和泉電気有限公司の議決権に対する所有割合欄の()内数字は間接所有割合(内数)であり、間接所有の会社は、台湾愛徳克股份有限公司であります。
- 4 I D E C IZUMI(H.K.)CO.,LTD.の議決権に対する所有割合欄の()内数字は間接所有割合(内数)であり、間接所有の会社はI D E C HONG KONG CO.,LTD.であります。
- 5 愛徳克電気貿易(上海)有限公司、和泉電気自動化制御(深圳)有限公司、和泉電気(北京)有限公司の議決権に対する所有割合欄の()内数字は間接所有割合(内数)であり、間接所有の会社はI D E C IZUMI(H.K.)CO.,LTD.であります。
- 6 愛徳克電子科技(上海)有限公司の議決権に対する所有割合欄の()内数字は間接所有割合(内数)であり、間接所有の会社は愛徳克電気貿易(上海)有限公司であります。
- 7 台湾科奈徳股份有限公司、太倉科奈徳電気有限公司の議決権に対する所有割合欄の()内数字は間接所有割合(内数)であり、間接所有の会社は、株式会社コーネットであります。
- 8 I D E C システムズ&コントロールズ株式会社及びI D E C CORPORATIONについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えており、当連結会計年度における主要な損益情報等は下記のとおりであります。

	I D E C システムズ& コントロールズ株式会社	I D E C CORPORATION
売上高	6,036百万円	5,735百万円
経常利益	409 "	508 "
当期純利益	268 "	298 "
純資産額	786 "	4,668 "
総資産額	2,251 "	6,163 "

- 9 2015年4月1日付で、株式会社コーネットは、株式会社コーネットシステムを吸収合併いたしました。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	964 (591)
北米	111 (12)
欧州	14 (0)
アジア・パシフィック	1,020 (0)
合計	2,109 (603)

(注) 従業員数は就業人員であり、従業員数欄の(外書)は臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
783 (319)	42.80	17.00	6,218

セグメントの名称	従業員数(名)
日本	783 (319)
合計	783 (319)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社及び連結子会社の一部には、I D E C 労働組合が組織されており、全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会(電機連合)に加盟し、組合員数726名でユニオンショップ制であります。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、米国においては民需を中心に堅調に推移したものの、アジア地域では中国経済の減速傾向が鮮明になるなど、景気は足踏み状態で推移しました。また、わが国経済においては、政策効果などもあり概ね堅調に推移しました。当社グループを取り巻く環境については、当社が所属する社団法人日本電気制御機器工業会の出荷高が輸出を中心に前年を上回る水準で推移したものの、年度後半にかけては力強さを欠く展開となっております。

そのような中、当社グループでは、制御用操作スイッチなど既存事業の収益性向上や海外市場での事業拡大、環境・エネルギー分野を中心とした新規事業展開などに取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高としては、制御用操作スイッチや安全関連製品などの制御機器製品や太陽光発電関連の新規事業の売上が伸長した結果、国内売上高は、265億2千9百万円（前期比14.8%増）となりました。また、制御用操作スイッチや制御用リレーなど制御機器製品やプログラマブルコントローラが北米・中国地域で伸長したことに加え、為替が円安に推移したこともあり、海外売上高は、156億4千4百万円（前期比18.4%増）となりました。その結果、連結全体の売上高は、421億7千3百万円（前期比16.1%増）となりました。

利益面におきましては、営業利益は、前期に比べ、主として増収効果により29億1千万円（前期比24.2%増）となりました。経常利益は、前期に比べ、増収効果に加え、為替差益の計上などにより31億6千万円（前期比27.3%増）となりました。当期純利益は、前期に比べ増収効果による利益増により20億9千6百万円（前期比43.9%増）となりました。

なお、当期における対米ドルの平均レートは、109.77円（前年同期は100.17円で9.6円の円安）となりました。

セグメントの業績に関しては、次のとおりであります。

日本

政策効果の影響などによる輸出企業を中心とした堅調な推移を背景に、主力製品である制御用操作スイッチなどの制御機器製品群やバーコードを中心としたAUTO ID（自動認識）機器などの制御装置及びFAシステム製品群、新規事業として取り組んでいる太陽光発電関連ビジネス事業の売上が伸長した結果、売上高は、前年同期に比べ、41億3千9百万円増収の287億3千万円（前年同期比16.8%増）となり、営業利益は、前年同期に比べ、3億6千5百万円増益の14億8千9百万円（前年同期比32.6%増）となりました。

北米

円安に伴い円換算での売上高が増加したことに加え、現地通貨ベースにおきましても、米国経済が民需の牽引などで堅調に推移したことにより、前年同期に比べて、売上高、営業利益共に伸長しました。特に制御用操作スイッチや制御用リレーなどの制御機器製品群、プログラマブルコントローラなどの制御装置及びFAシステム製品群が伸長した結果、売上高は、前年同期に比べ、7億9千9百万円増収の57億4千2百万円（前年同期比16.2%増）となり、営業利益は、前年同期に比べ、9千3百万円増益の5億6百万円（前年同期比22.8%増）となりました。

欧州

円安に伴い円換算での売上高が増加したことに加え、現地通貨ベースにおきましても、欧州地域における景気持ち直しの動きにより、前年同期に比して増収となりました。得意先のグループ内移管などによりプログラマブルコントローラが減少した一方で、主力製品である制御用操作スイッチなどの制御機器製品群の売上が増加した結果、売上高は、前年同期に比べ、6千3百万円増収の8億5千6百万円（前年同期比8.0%増）となりました。一方で、営業利益は、上記影響による販売品目の変化などにより、前年同期に比べ、1千3百万円減益の5千2百万円（前年同期比20.8%減）となりました。

アジア・パシフィック

中国経済の減速傾向や東南アジア地域における政治情勢の不透明感による景気の足踏み感があつたものの、中国地域において主力製品である制御用操作スイッチや制御用リレーなどの制御機器製品群の売上高が伸長した結果、売上高は、前年同期に比べ、8億5千1百万円増収の68億4千3百万円（前年同期比14.2%増）となり、営業利益は、前年同期に比べ、1億4千3百万円増益の8億5百万円（前年同期比21.8%増）となりました。

また、製品種類別の売上高については、次のとおりであります。

制御機器製品

日本においては、輸出企業を中心とした堅調な推移を背景に、主力製品である制御用操作スイッチ及び安全スイッチの売上が伸長しました。また、北米やアジア・パシフィックを中心とした海外地域においても、制御用操作スイッチや制御用リレーが堅調に推移致しました。その結果、売上高は、前年同期に比して、31億5千6百万円増収の225億7千2百万円（前年同期比16.3%増）となりました。

HMI（Human Machine Interface：人と機械が触れ合う環境）の核となる盤面機器「制御用操作スイッチ」、「表示灯」や、産業現場の安全を実現する「安全関連製品」のほか、「制御用リレー」、「サーキットプロテクタ」、「センサ」のほかに、主として機械・装置に使用される「産業用LED関連製品」などの製品群です。

制御装置及びFAシステム製品

日本においては、輸出企業を中心とした堅調な推移を背景に、バーコードを中心としたAUTO ID（自動認識）機器の売上が伸長しました。また北米地域においては、米国市場が堅調に推移したことなどにより、主としてプログラマブルコントローラが堅調に推移しました。その結果、売上高は、前年同期に比べ、18億6千万円増収の61億6千2百万円（前年同期比43.2%増）となりました。

機械・装置の頭脳の役割をする「プログラマブルコントローラ」や、快適な機械・装置の操作環境を実現する「プログラマブル表示器」、「ペンダント」などの製品群です。

制御用周辺機器製品

日本においては、輸出企業を中心とした堅調な推移を背景に、端子台や電源機器などの売上が伸長したこと、北米地域においては、米国市場が堅調に推移したことなどにより電源機器が伸長したことにより、売上高は、前年同期に比べ、2億7千6百万円増収の52億6百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

機械・装置などの制御部分の基礎として制御盤などに使用される機器「スイッチング電源」、「通信ターミナル」、「端子台」、「ソケット」、「コントロールボックス」などの製品群です。

防爆・防災関連機器製品

日本において、防爆関連製品の売上が伸び悩んだものの、防爆LED製品が増加したこともあり、売上高は、前年同期に比べ、1千万円増収の16億5百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

石油・化学プラントをはじめとした、爆発性のガスが存在する産業現場での事故を未然に防ぐ「本質安全防爆機器」、「耐圧防爆機器」、「安全増防爆機器」や「防災機器及び関連機器」などの製品群です。

その他の製品

日本において、新規事業として取り組んでおります太陽光発電用電力マネジメントシステムなどの環境関連製品の売上が増加した結果、売上高は、前年同期に比べ、5億5千万円増収の66億2千7百万円（前年同期比9.1%増）となりました。

HMI（Human Machine Interface：人と機械が触れ合う環境）をトータルな視点から考え、最適環境を提案・構築する融合型製品「HMIソリューション製品」、「セキュリティ製品」、環境問題に対応した、工場や商業用施設向け「施設用LED照明機器」、再生可能エネルギーの利用を促進する「産業用・家庭用太陽光発電用電力マネジメントシステム関連製品」や土壌・水質浄化にも活用可能な「微細気泡発生装置（GALF）」などの製品群です。

(2) キャッシュ・フローの状況

	前連結会計年度(百万円)	当連結会計年度(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,633	1,925
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,493	1,169
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,929	891
現金及び現金同等物に係る換算差額	339	387
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	549	252
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	162	
現金及び現金同等物期首残高	7,031	7,743
現金及び現金同等物期末残高	7,743	7,995

営業活動によるキャッシュ・フローは、19億2千5百万円の収入となりました。これは主に、太陽光発電関連ビジネス事業の推進により、たな卸資産が7億5千4百万円増加したことや前受金が7億8千万円減少した一方で、税金等調整前当期純利益を31億5千5百万円計上したことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、11億6千9百万円の支出となりました。これは主に、有価証券の売却により4億4千1百万円の収入となった一方で、太陽光発電所等の有形固定資産を取得したことより13億7千5百万円、株式会社コーネット及び株式会社コーネットシステムの株式を取得したことにより1億2千2百万円を支出したことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、8億9千1百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払いにより9億円を支出したことによるものです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
日本	25,688	116.3
アジア・パシフィック	7,704	134.0
合計	33,393	119.9

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 金額は、販売価格によっております。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高		受注残高	
	金額(百万円)	前年同期比(%)	金額(百万円)	前年同期比(%)
日本	26,206	96.1	2,916	53.6
北米	5,722	114.1	181	89.9
欧州	871	106.7	148	110.7
アジア・パシフィック	7,059	109.4	1,655	115.0
合計	39,859	100.8	4,902	67.9

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
日本	28,730	116.8
北米	5,742	116.2
欧州	856	108.0
アジア・パシフィック	6,843	114.2
合計	42,173	116.1

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

世界の経済情勢は、米国では堅調に推移し、欧州においても復調の兆しが見え、アジアにおいても安定的な成長が予想されます。また、国内においても引き続き緩やかに拡大するものと予測されます。

このような状況のもと当社グループでは、基盤事業での収益性向上、環境分野を中心とした新規事業拡大に取り組んでおります。

中期経営計画の重点戦略は下記のとおりです。

(1) 既存事業強化 基盤事業の収益性の向上と海外市場戦略強化

既存事業分野においては、顧客ニーズに基づく制御ソリューション展開を強化し、差別化によるシェア拡大、収益性向上を図っております。具体的な取り組みとして、制御ソリューションの技術基盤をもつ株式会社コーネットグループを子会社化し、生産性の向上、安全な環境実現など顧客ニーズに対応する最適な制御システム製品の提供やエンジニアリングサービスなどを機動的に行える体制を強化するとともに、商品企画、設計開発、生産技術などの技術者を新たな本社/技術研究センターに結集し、顧客ニーズへの対応、既存製品の収益性の向上にも一丸となって取り組んでおります。また、海外市場においては、アジアでも拡大が見込まれる高度な自動化、省力化のニーズに対応していくため中国のソフトウェア開発会社の顧客対応力強化、新たに設置したタイでの生産、販売拠点の本格稼働とともに、販売拠点を新規に設置し、東南アジアでの事業拡大を推進していきます

(2) 新規事業拡大 環境・エネルギー分野を中心に新規事業展開

新規事業分野として、社会的ニーズが高まっている再生可能エネルギー分野で、I D E Cグループが培ってきたコア技術を活かした製品・サービスを開発するとともに、メガソーラーシステムの設計から施工、保守メンテナンスまでワンストップで提供していくことで顧客ニーズに対応し、差別化を推進しています。合わせて環境事業の一環として、微細気泡生成技術(G A L F)を活用した汚染土壌浄化事業や実践型農業研究施設による農業のオートメーション化事業についても立ち上げを進めてまいります。

また、自動認識機器市場での事業拡大に向けて、世界有数の自動認識機器メーカーであるDATA LOGIC社(イタリア)との戦略的パートナーシップのもと、当社グループとして設計開発から製造、販売まで一貫した体制を整備し、制御機器で培った技術を活かした新製品の開発、市場投入を促進し、事業拡大を推進しております。

(3) 事業基盤の整備 企業風土改革・業務改革による収益基盤強化

確固たる事業基盤の整備のため、I D E Cグループとしてあらためて「顧客視点」を徹底し、顧客から真に選ばれる「プリファード・サプライヤー」を目指します。また、2013年に完成した新たな研究開発拠点での開発・生産のコラボレーションにより、ものづくり力を強化するとともに、プロダクト・ライフサイクル・マネジメントを徹底し、さらなる収益性の向上を図ってまいります。

(4) C S Rへの取り組み

当社は、1945年の創業以来、「企業の発展を通じて社会に貢献する」ことを経営の基本方針のひとつとしており、長年の安全関連製品の開発実績に基づく「安全の普及」と「地球環境保護への貢献」をC S R活動の中心に据えております。また、国連グローバル・コンパクトへの参加企業として、企業の社会的責任を果たすための取り組みを積極的に推進しております。

安全分野では、ものづくりに関する豊富な知識・経験と、機械安全に対する高度な知見を有した多数のセーフティ・アセッサ有資格者を各部門に配置し、安全思想の社会への浸透および当社製品への反映、また安全性と生産性の両立を目指した安全コンサルティングを展開しています。今後は国内のみならず、経済発展を背景に産業現場の安全に対する意識の高まりが見られるアジア地域においても、「安全をつくる」このような取り組みを推進してまいります。

地球環境保護という点におきましては、再生可能エネルギーの活用促進という観点から、大規模な産業向けから家庭環境向けまで幅広い範囲で太陽光発電における電力マネジメント事業に取り組み、環境・エネルギー問題への貢献に努めております。また、当社の技術・製品の組み合わせにより、お客様のさまざまなニーズに対応する形で、社会的な環境配慮、環境負荷低減の取り組みに貢献しております。

4 【事業等のリスク】

以下において、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在における当社グループの判断に基づいております。

(1) 為替変動の影響

当社グループの事業では約4割を海外の市場にて販売しております。為替変動のリスクを回避するため通貨ヘッジ取引を行い、短期的な変動による悪影響を最小限にとどめるよう努めておりますが、その影響を受ける可能性もあるため、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を与える可能性があります。

(2) たな卸資産の評価損

当社グループは、たな卸資産の推定される将来需要や陳腐化の見積額に基づいて評価損を計上しております。実際の将来需要または市場状況が当社グループの見積りより悪化した場合、追加の評価減が必要となる可能性があります。

(3) 退職給付費用の増加

従業員退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定されている前提に基づき算出しております。実際の結果が前提条件と異なる場合及び今後この前提条件が変化した場合には、変化した年度以降の退職給付費用が大きく増加する可能性があります。

(4) 海外進出に存在するリスク

当社グループは、日本国内での製品の生産のほか、競争力のある製品の製造とコスト削減のために、中国、台湾、タイの海外拠点にて製品の生産を行っております。この海外拠点においては、以下のようなリスクが存在します。

予期しない法規や税制の変更

人材の採用と確保の難しさ

技術的なインフラの未整備による影響

予知せぬ経済力、社会的な情勢の変化等

これらは、海外拠点での部品調達や操業に問題を発生させ、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 業務提携・戦略的投資に関連するリスク

当社グループは、外部企業との事業の合併や戦略的提携を行っております。事業が適切な計画の下で予定どおり進まなかった場合や、当社市場の動向、提携先企業の業績状況によって、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 知的財産権に係るリスク

当社グループは、当社グループの知的財産権を守り、他社の権利を尊重した製品・技術の開発を進めております。しかしながら、技術革新のスピードが加速していること、また、当社グループは事業活動をグローバルに展開していることから、知的財産権の係争が発生する可能性があり、そうした場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 固定資産の減損に係るリスク

当社グループは、有形固定資産ほか多くの固定資産を有しております。固定資産の減損に係る会計基準の適用により、このような資産において、時価の下落や当該資産から得られる将来のキャッシュ・フローの状況によっては減損処理が必要な場合があり、そうした場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 災害等のリスク

当社グループは、国内外に製造、販売、物流等の拠点を有しております。当該地域において、地震及び洪水等の自然災害、火災、戦争及びテロ行為、感染症の流行、労働災害等が起こった場合、当社グループの拠点の設備等が大きな損害を被る等、その一部または全部の操業が中断し、生産及び出荷が遅延する可能性があります。また、損害を被った設備等の修復のために多額の費用が発生し、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発は、主として当社（I D E C 株式会社）で行っており、各連結子会社は当社で開発されたものを製造ならびに販売することを主としております。したがって、当社グループにおける研究開発活動は、主として当社のセグメント区分である日本で行っております。

当社では、“Think Automation and beyond...”をコンセプトとして掲げ、オートメーションを考え、人と機械がふれあうその接点に「安心」と「信頼」、そしてその先にある「新しい可能性」を創造することを目指しております。2013年4月に本社/技術研究センターを移転し、研究・開発・生産テクノロジーの拠点として、制御、安全、環境など9つのコア技術を基軸に、産官学など外部技術を融合させて、技術ならびに製品の開発を推進しております。

なお、当連結会計年度の研究開発費は21億1千万円であり、売上高の5.0%となっております。

主な研究開発活動の成果を示すと次のとおりであります。

主力製品である安全関連製品においては、産業事故撲滅への貢献を目指した最新の機械類向け国際安全規格に対応したソレノイド付安全スイッチH S 5 L形（2接点タイプ、4接点タイプ）計24機種を開発及び発売し、安全スイッチの強化を図りました。また、制御用リレーにおいては、盤内実装の高密度化に対応する幅約6mmのスリムな薄形で、且つ接触信頼性と耐振動性に優れたスプリングクランプ端子を搭載したインターフェイスリレーR V 8 H形を開発及び発売しました。

制御装置及びF Aシステム製品においては、表示器一体形コントローラS m a r t A X I SシリーズのF T 1 A形T o u c hにアナログ出力及びP I D機能を追加した新機種を開発し、アナログ・温調制御対応を図ることでシリーズを強化しました。

低炭素社会・省エネ社会への貢献を目指したL E D照明においては、高効率と低グレアを両立した高天井用L E D照明L G 1 H - 2 0 0シリーズ、可燃性ガス・液体が存在する爆発性危険場所で使用可能な非点火防爆構造L E D照明V M V形を開発及び発売し、産業用L E D照明の強化を図りました。また、国内メーカー初の海外主要認証に対応した耐圧防爆構造L E D照明/ E F 1 A形計864機種を開発し、グローバルでの発売を開始しました。

自動認識機器においては、業界標準品に比べ体積比で約60%の小形サイズで、従来品にはないメンテナンス業務を支援するエラー分析機能などを持つ固定式1次元C C DスキャナW B 1 F形を開発しました。

新規事業分野においては、環境エネルギー分野への展開を図り、業界最小コンパクトデザインで多数台連系対応の単独運転防止機能を搭載したパワーコンディショナ2機種を発売しました。また、農水省の「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証事業」にて農業法人と共同で高溶存酸素ファインバブル水を用いたトマトの活性コントロールによる栽培手法の確立に取り組んでおります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に際し、見積りによる収益・費用の計上を行っております。経営陣は、過去の実績や状況に応じ、合理的と考えられる方法により見積り及び判断を行っておりますが、実際の結果は、不確実性を含んでおり、見積りによる数値とは異なる場合があります。

特に以下の重要な会計方針が、当社の連結財務諸表の作成において使用される当社の重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

たな卸資産

当社グループは、連結会計年度末時点において簿価と市場価格の状況を検討し市場価格が下回る場合は評価損を計上しております。実際の市場価格が当社グループの見積りより悪化した場合、計上した評価損の過不足が生じる可能性があります。

貸倒引当金

当社グループは、債権の回収不能時に発生する損失の見積額について貸倒引当金を計上しておりますが、債権先の財政状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要になる場合があります。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について実現可能性が高いと考えられる金額へ減額するために、評価性引当金を計上しておりますが、繰延税金資産の全部または一部を将来回収出来ないと判断した場合、当該判断を行った期に調整額を費用として計上いたします。

退職給付費用

従業員退職給付費用及び債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づき算出しております。実際の結果が前提条件と異なる場合及び今後この前提条件が変化した場合には、変化した年度以降の退職給付費用が大きく増加する場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高

前年同期に比べて国内では、政策効果の影響などによる輸出企業を中心とした堅調な推移を背景に、主力製品である制御用操作スイッチなどの制御機器製品群、バーコードを中心としたA U T O I D（自動認識）機器などの制御装置及びF Aシステム製品群が伸長しました。また、新規事業として取り組んでいる太陽光発電関連ビジネス事業の売上についても大きく伸長しました。海外においては、中国経済の減速傾向や東南アジア地域における政治情勢の不透明感による景気に足踏み間があったものの、米国においては民需の牽引などにより堅調に推移したことなどもあり、当社主力製品である制御用操作スイッチや制御用リレーなどの制御機器製品群、プログラマブルコントローラなどの制御装置及びF Aシステム製品群が伸長しました。その結果、国内売上高は、国内売上高は265億2千9百万円（前年同期比14.8%増）、海外売上高は156億4千4百万円（前年同期比18.4%増）となり、連結全体の売上高は、421億7千3百万円（前年同期比16.1%増）となりました。

なお、当期における対米ドルの平均レートは、109.77円（前年同期は100.17円で9.6円の円安）となりました。

損益状況

売上高の増加に伴い、売上原価は、前年同期に比べ、41億4千2百万円増加し、250億5千6百万円となりました。販売費及び一般管理費は、前年同期に比べ、11億4千3百万円増加し、142億7百万円となりました。以上の結果、営業利益は、前年同期に比べ、5億6千7百万円増加の29億1千万円（前年同期比24.2%増）となりました。

営業外収益は、前年同期に比べ、為替差益が増加したことなどにより、1億4千6百万円増加の4億8千4百万円となり、営業外費用は、支払補償費の計上などにより、前年同期に比べ、3千6百万円増加の2億3千4百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期に比べ、6億7千7百万円増加の31億6千万円（前年同期比27.3%増）となりました。

特別利益は、前年同期に比べて、9千3百万円減少の2千9百万円となりました。これは主に、前年同期において退職給付制度終了益を計上したことによるものです。特別損失は、前年同期に比べ、減損損失が減少したことなどにより、2億2千1百万円減少の3千4百万円となりました。その結果、税金等調整前当期純利益は、前年同期に比べて、8億5百万円増加し、31億5千5百万円（前年同期比34.3%増）となり、当期純利益は、前年同期に比べて、6億3千9百万円増加し、20億9千6百万円（前年同期比43.9%増）となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

市場の動向

当社グループは、主要販売品目の性格上、設備投資需要の動向の影響を受けております。

為替の変動

当社グループは、製品の約4割を海外の市場にて販売しております。為替変動のリスクを回避するため通貨ヘッジ取引を行い、短期的な変動による悪影響を最小限にとどめるよう努めておりますが、その影響を受ける可能性もあるため、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

財政状態の分析

当連結会計年度末の総資産の額は、前連結会計年度末より35億9千9百万円増加し、493億7千8百万円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が8億9千7百万円、太陽光発電関連ビジネス事業の推進によりたな卸資産が14億7千5百万円、太陽光発電所等の有形固定資産が9億6千3百万円増加したことによるものです。

負債の額は、前連結会計年度末より2億8千2百万円増加し、170億3千2百万円となりました。これは主に、前受金が7億8千万円減少した一方で、支払手形及び買掛金等の仕入債務が2億6千6百万円、借入金が増加したことです。

純資産の額は、主に当期純利益の計上により利益剰余金が14億4千7百万円増加し、為替換算調整勘定のマイナス残高が14億6千1百万円減少したことにより、前連結会計年度末より33億1千6百万円増加し、323億4千5百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より2億5千2百万円増加し、79億9千5百万円となりました。

なお、当連結会計年度末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、19億2千5百万円の収入となりました。これは主に、太陽光発電関連ビジネス事業の推進により、たな卸資産が7億5千4百万円増加したことや前受金が7億8千万円減少した一方で、税金等調整前当期純利益を31億5千5百万円計上したことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、11億6千9百万円の支出となりました。これは主に、有価証券の売却により4億4千1百万円の収入となった一方で、太陽光発電所等の有形固定資産を取得したことにより13億7千5百万円、株式会社コーネット及び株式会社コーネットシステムの株式を取得したことにより1億2千2百万円を支出したことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、8億9千1百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払いにより9億円を支出したことによるものです。

(5) 戦略的現状と見通し及び今後の方針

世界の経済情勢は、米国では底堅い回復が続き、欧州においても債務問題沈静化により回復が予想され、アジアにおいても安定的成長が継続することが予測されます。また、国内においても経済対策が景気を下支えし、緩やかな回復基調が続くものと予測されます。

このような状況のもと当社グループでは、基盤事業での収益性向上、環境分野を中心とした新規事業拡大に取り組んでおります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）における当連結会計年度の設備投資については、太陽光発電関連、情報インフラ整備関連における設備投資や製品品質や生産力の向上を目的とした生産設備投資を進めた結果、設備投資総額は17億6千1百万円となりました。

所要資金については、自己資金及び借入金を充当しております。

なお、設備投資金額には、有形固定資産に加えて無形固定資産（ソフトウェア）への投資8億5千8百万円を含めております。

また、当連結会計年度におけるセグメント別の主な設備投資は、次のとおりであります。

日本においては、太陽光発電関連にて9億6千4百万円の設備投資を行っており、生産設備については、製品品質及び生産能力強化を目的に、2億4千2百万円の設備投資を行っております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成27年3月31日現在

セグメント名及び事業所名 (所在地)	設備の内容等	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)	
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	ソフト ウェア	リース資産	その他		合計
日本 本社・アイデック技術 研究センター (大阪市淀川区)	研究開発 施設設備等	4,340	85	2,536 (10)	260	126	409	7,760	352
尼崎事業所 (兵庫県尼崎市)	防爆・システム 製品製造設備等	690	105	1,779 (12)		3	60	2,639	40
福崎事業所 (兵庫県神崎郡福崎町)	表示灯製造 設備等	235	137	48 (16)	5	2	47	476	59
滝野事業所 (兵庫県加東市)	操作スイッチ 製造設備等	486	203	443 (18)		6	64	1,204	80
筑波事業所 (茨城県竜ヶ崎町)	プログラマブル コントローラ 製造設備等	386	26	505 (17)		1	36	955	34
浜松事業所 (静岡県浜松市)	L E D 関連製品 製造設備等	393	10	717 (19)		4	139	1,265	25
竜野物流センター (兵庫県たつの市)	自動倉庫等 物流関連設備	243	31	274 (7)		7	9	566	7
東日本営業 東京営業所 他11カ所 (東京都港区)	その他設備 (販売業務)	13				40	29	83	98
西日本営業 大阪営業所 他9カ所 (大阪市淀川区)	その他設備 (販売業務)	0				35	10	46	88

(注) 1 帳簿価額のうち、「その他」は「有形固定資産」の「工具、器具及び備品」及び「建設仮勘定」、「無形固定資産」の「その他」を合計したものであります。

2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

平成27年3月31日現在

セグメント名 及び 会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容等	帳簿価額(百万円)							従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千 m ²)	ソフト ウエア	リース 資産	その他	合計	
日本 IDEC システムズ &コントロールズ 株式会社	本社 (大阪市)	その他設備 (管理、物流及 び販売業務等)	35	0	547 (247)	3	0	74	663	59 (10)

- (注) 1 帳簿価額のうち、「その他」は「有形固定資産」の「工具、器具及び備品」及び「建設仮勘定」、「無形固定資産」の「その他」を合計したものであります。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 臨時従業員の平均雇用人員については、従業員数欄に()で外書きしております。

(3) 在外子会社

平成27年3月31日現在

セグメント名 及び 会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容等	帳簿価額(百万円)							従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千 m ²)	ソフト ウエア	リース 資産	その他	合計	
北米 IDEC CORPORATION	本社 (米国カリフォルニア)	その他設備 (管理、物流及 び販売業務等)	1,198	13	450 (18)	14		110	1,787	104 (11)
アジア・パシフィック 台湾愛徳克股份 有限公司	本社、工場 (台湾省高雄)	制御製品用部 品製造設備 制御製品製造 設備 金型製造設備 等	44	2	10 (2)	2		6	66	133 (0)
蘇州和泉電気 有限公司	本社、工場 (江蘇省蘇州 市)	制御製品製造 設備等	1	130		4		106	242	622 (0)
IDEC ASIA (THAILAND) CO.,LTD	本社、工場 (Saraburi Province)	制御製品製造 設備等	440	75	107 (17)	1		43	667	70 (0)

- (注) 1 帳簿価額のうち、「その他」は「有形固定資産」の「工具、器具及び備品」及び「建設仮勘定」、「無形固定資産」の「その他」を合計したものであります。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
3 臨時従業員の平均雇用人員については、従業員数欄に()で外書きしております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、原則的に連結会社各社が個別に策定し、提出会社にて調整を図っております。

当連結会計年度における重要な設備の新設及び改修に係る投資予定の所要資金は、自己資金及び借入金で充当する予定であります。

当連結会計年度末現在における、重要な設備投資の計画は、以下のとおりであります。

セグメント名 及び 会社名	事業所名 又は 所在地	設備の内容等	投資予定 金額 (百万円)	資金調 達方法	着手及び完了予定 年月		完成後の増加能力
					着手	完了	
日本 提出会社	滝野事業所 (兵庫県加東市)	金型等製造 設備	400	自己資金 及び借入金	平成27年 4月	平成28年 3月	品質向上を図るために 能力の増強はほとんど ありません。
	福崎事業所 (兵庫県神崎郡)	金型等製造 設備	300	同上	同上	同上	同上
	筑波事業所 (茨城県竜ヶ崎市)	金型等製造 設備	200	同上	同上	同上	同上
アジア・パシフィック 台湾愛徳克股份 有限公司	本社、工場 (台湾省高雄)	製造設備 建物	300	同上	同上	同上	修繕・更新による本来 機能の回復・維持

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年6月18日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	38,224,485	38,224,485	東京証券取引所 市場第1部	単元株式数は100株であります。
計	38,224,485	38,224,485		

(2)【新株予約権等の状況】

当社は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき下記(イ)、(ロ)、(ハ)の新株予約権を発行しております。

(イ)

株主総会の特別決議日(平成24年6月15日)		
	事業年度末現在 (平成27年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年5月31日)
新株予約権の数(個)	290個(注)1,3	280個(注)1,3
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	29,000株(注)3	28,000株(注)3
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり740円(注)2	同左
新株予約権の行使期間	平成26年7月1日～ 平成28年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格：740円 資本組入額：権利行使によって新株を発行する場合には、新株発行価額の1/2(1円未満の端数は切り下げ)を資本に組み入れないものとする。ただし、自己株式を充当する場合は、資本金への組み入れは行わない。	同左
新株予約権の行使の条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第10回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。ただし、本新株予約権がストックオプションを目的として発行されるものであることに鑑み、「第10回新株予約権割当契約書」において、譲渡ができないことを規定するものとする。	同左
代用払込みにに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4	同左

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

なお、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生ずる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2 新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

3 組織再編行為の際の取扱い

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、合併契約、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (2) 新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記1に準じて決定する。
- (3) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
組織再編行為の条件等を勘案の上、調整される行使価額に上記(2)に従って決定される株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (4) 新株予約権を行使することができる期間
残存新株予約権の権利行使期間と同じとする。
- (5) 譲渡による新株予約権の取得の制限
各新株予約権を譲渡するときは、再編対象会社の承認を要するものとする。
- (6) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

(口)

株主総会の特別決議日(平成25年6月14日)		
	事業年度末現在 (平成27年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年5月31日)
新株予約権の数(個)	490個(注)1,3	490個(注)1,3
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	49,000株(注)3	49,000株(注)3
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり957円(注)2	同左
新株予約権の行使期間	平成27年7月1日～ 平成29年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格：957円 資本組入額：権利行使によって新株を発行する場合には、新株発行価格の1/2(1円未満の端数は切り下げ)を資本に組み入れないものとする。ただし、自己株式を充当する場合は、資本金への組み入れは行わない。	同左
新株予約権の行使の条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第11回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。ただし、本新株予約権がストックオプションを目的として発行されるものであることに鑑み、「第11回新株予約権割当契約書」において、譲渡ができないことを規定するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4	同左

(注)1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

なお、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生ずる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2 新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

3 組織再編行為の際の取扱い

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の

新株予約権を交付する旨を、合併契約、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (2) 新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記1に準じて決定する。
- (3) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
組織再編行為の条件等を勘案の上、調整される行使価額に上記(2)に従って決定される株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (4) 新株予約権を行使することができる期間
残存新株予約権の権利行使期間と同じとする。
- (5) 譲渡による新株予約権の取得の制限
各新株予約権を譲渡するときは、再編対象会社の承認を要するものとする。
- (6) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

(八)

株主総会の特別決議日(平成26年6月13日)		
	事業年度末現在 (平成27年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年5月31日)
新株予約権の数(個)	435個(注)1,3	435個(注)1,3
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	43,500株(注)3	43,500株(注)3
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり969円(注)2	同左
新株予約権の行使期間	平成28年7月1日～ 平成30年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格:969円 資本組入額:権利行使によって新株を発行する場合には、新株発行価格の1/2(1円未満の端数は切り下げ)を資本に組み入れないものとする。ただし、自己株式を充当する場合は、資本金への組み入れは行わない。	同左
新株予約権の行使の条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第12回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。ただし、本新株予約権がストックオプションを目的として発行されるものであることに鑑み、「第12回新株予約権割当契約書」において、譲渡ができないことを規定するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4	同左

(注)1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。

なお、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生ずる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

2 新株予約権発行後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

3 組織再編行為の際の取扱い

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の

新株予約権を交付する旨を、合併契約、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (2) 新株予約権の目的たる再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記1に準じて決定する。
- (3) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
組織再編行為の条件等を勘案の上、調整される行使価額に上記(2)に従って決定される株式の数を乗じて得られる金額とする。
- (4) 新株予約権を行使することができる期間
残存新株予約権の権利行使期間と同じとする。
- (5) 譲渡による新株予約権の取得の制限
各新株予約権を譲渡するときは、再編対象会社の承認を要するものとする。
- (6) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年6月12日		38,224		10,056	4,613(減)	5,000

(注)平成21年6月12日開催の定時株主総会において、継続的かつ安定的な配当の実施及び自己株式の償却等、今後の資本政策上の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、資本準備金4,613百万円を取り崩し、その他資本剰余金へ振替えることを決議いたしました。

(6) 【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	0	30	25	123	107	10	9,230	9,525	
所有株式数(単元)	0	71,808	3,809	18,264	41,397	201	246,556	382,035	20,985
所有株式数の割合(%)	0	18.80	1.00	4.78	10.84	0.05	64.54	100.00	

- (注) 1 自己株式7,992,853株は、「個人その他」欄に79,928単元及び「単元未満株式の状況」欄に53株含まれております。
2 上記「その他の法人」の中には、証券保管振替機構名義の株式が5単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,744	7.18
有限会社船木興産	大阪府箕面市石丸3丁目11-32	1,041	2.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11-3	1,007	2.64
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	822	2.15
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	812	2.13
藤田 慶二郎	大阪府箕面市	777	2.03
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	624	1.63
船木 恒雄	大阪府箕面市	575	1.51
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	514	1.35
DATA LOGIC S.P.A	VIA CANDINI 2 40012 LIPPO DI CALDERARA DI RENO BOLOGNA, ITALY	477	1.25
計		9,398	24.59

- (注) 1 自己株式として平成27年3月31日現在7,992千株(20.91%)を保有しております。
2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 2,744千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 1,007千株
資産管理サービス信託銀行株式会社 822千株

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,992,800		権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,210,700	302,107	同上
単元未満株式	普通株式 20,985		同上
発行済株式総数	38,224,485		
総株主の議決権		302,107	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権5個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式53株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) I D E C 株式会社	大阪市淀川区西宮原2丁目 6番64号	7,992,800		7,992,800	20.91
計		7,992,800		7,992,800	20.91

(9)【ストックオプション制度の内容】

当社は、下記(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)、(ホ)のストックオプション制度を採用しております。

(イ)当社の取締役(社外取締役を除く)に対するストックオプションとしての新株予約権に関する報酬について、平成23年6月17日の定時株主総会において決議しております。

決議年月日	平成23年6月17日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役(社外取締役を除く)4名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	4万株を上限とする。(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)2
新株予約権の行使期間	割り当てる日の翌日から20年以内の範囲で、当社取締役会において定める期間とする。
新株予約権の行使の条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員および従業員であることを要する。ただし、当社の取締役を退任した場合であっても、退任日から3年以内に限って行使ができるものとする。 その他の新株予約権の行使の条件については、新株予約権の募集事項等を決定する当社取締役会において定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。ただし、本新株予約権がストックオプションを目的として発行されるものであることに鑑み、「新株予約権割当契約」において、譲渡ができないことを規定するものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

- (注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、100株であります。
 なお、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生ずる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$
 また、当社が合併または会社分割を行う場合その他これらに準じて株式数の調整を必要とする場合には、当社は必要と認める調整を行うことができるものとする。
- 2 新株予約権1個当たりの払込金額は、新株予約権の割り当てに際してブラック・ショールズ・モデル等の公正な算定方式により算定された新株予約権の公正価額を基準とする。
 各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、当該各新株予約権を行使することにより交付を受ける事ができる株式の1株当たりの払込金額を1円とし、これに新株予約権1個当たりの目的となる株式数を乗じた金額とする。

(ロ)会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社従業員の意欲や士気を高め、当社グループ業績の向上や国際競争力の増大に資することを目的として、以下の要領により金銭の払込みを要することなく新株予約権を無償で発行することを平成24年6月15日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成24年6月15日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員(36名)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」(イ)に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(八)会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社従業員の意欲や士気を高め、当社グループ業績の向上や国際競争力の増大に資することを目的として、以下の要領により金銭の払込みを要することなく新株予約権を無償で発行することを平成25年6月14日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成25年6月14日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員(39名)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」(口)に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(二)会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社従業員の意欲や士気を高め、当社グループ業績の向上や国際競争力の増大に資することを目的として、以下の要領により金銭の払込みを要することなく新株予約権を無償で発行することを平成26年6月13日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成26年6月13日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員(36名)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」(ハ)に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(ホ)会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社従業員の意欲や士気を高め、当社グループ業績の向上や国際競争力の増大に資することを目的として、以下の要領により金銭の払込みを要することなく新株予約権を無償で発行することを平成27年6月17日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成27年6月17日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員(注)1
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	5万株を上限とする。(注)2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)3
新株予約権の行使期間	平成29年7月1日から平成31年6月30日までとする。
新株予約権の行使の条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員および従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由がある場合はこの限りでない。 その他の条件については、新株予約権発行の取締役会決議に基づき、当社と割当対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには取締役会の承認を要する。ただし、本新株予約権がストックオプションを目的として発行されるものであることに鑑み、「新株予約権割当契約」において、譲渡ができないことを規定するものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4

- (注) 1 付与対象者の区分及び人数の詳細は取締役会で決定する。
- 2 当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により目的たる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は本件新株予約権のうち、当該時点で権利行使していない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生ずる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。
- $$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$
- 3 新株予約権1個当たりの行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める1株当たりの払込金額に新株予約権1個当たりの目的となる株式数を乗じた金額とする。
- 1株当たりの払込金額は、東京証券取引所における当社株式普通取引の新株予約権割当日の属する月の前月各日(取引が成立しない日を除く)における終値平均値に1.05を乗じた金額とし、1円未満の端数は切り上げる。
- ただし、その金額が新株予約権割当日の終値(取引が成立しない場合はそれに先立つ直近日の終値)を下回る場合は、新株予約権割当日の終値とする。
- なお、新株予約権割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算出により払込金額を調整し、調整による生ずる1円未満の端数は切り上げる。
- $$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$
- また、時価を下回る価額で新株式の発行または自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整による生ずる1円未満の端数は切り上げる。
- $$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$
- 4 組織再編行為の際の取扱い
- 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以下、「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

- (1) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とする。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記2に準じて決定する。
- (3) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
組織再編行為の条件等を勘案の上、調整される行使価額に上記(2)に従って決定される株式の数を乗じて
得られる金額とする。
- (4) 新株予約権を行使することができる期間
残存新株予約権の権利行使期間と同じとする。
- (5) 譲渡による新株予約権の取得の制限
各新株予約権を譲渡するときは、再編対象会社の承認を要するものとする。
- (6) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	609	0
当期間における取得自己株式	20	0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取請求による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 (新株予約権の権利行使)	220,891	187	1,000	0
その他 (単元未満株式の買増請求による売渡)				
保有自己株式数	7,992,853		7,991,873	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの新株予約権の権利行使、単元未満株式の買取請求及び単元未満株式の買増請求による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社におきましては、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、安定的な配当の維持ならびに適正な利益の還元を実施することを経営の最重要施策の一つとして認識し、中長期的な観点で株主資本利益率および株主資本配当率の向上に努めてまいりました。一方で、内部留保につきましても、事業展開を勘案し、中長期的展望に立った研究開発投資、生産合理化投資、情報化投資等に有効活用し企業体質と企業競争力のさらなる強化にも取り組んでおります。さらに、利益還元の機動性を確保するために、取締役会決議による剰余金の配当が実施できる旨を当社定款第41条に規定しております。

以上の方針を踏まえ、当期の期末配当金につきましては、1株あたり15円とし、さらに本年11月3日に当社創業70周年を迎えるにあたり、株主の皆さまへの感謝の意を表した記念配当として5円を加えて、20円とすることに決定いたしました。中間配当金の15円と合わせ、1株当たり年間配当金は35円となります。今後の配当方針につきましては、引き続き中間・期末配当を着実に実施することを基本に、株主の皆さまへの利益還元を重視したうえで、業績、外部環境などの変化に対応した機動的配当政策を展開してまいります。

なお、2016年3月期におきましては、1株当たり年間配当金は、35円（中間：17.5円、期末：17.5円）を予想しております。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成26年10月31日 取締役会決議	453	15
平成27年5月13日 取締役会決議	604	20

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第64期	第65期	第66期	第67期	第68期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
最高(円)	934	1,006	894	989	1,100
最低(円)	630	713	606	780	850

(注) 株価は、東京証券取引所市場第1部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年 10月	11月	12月	平成27年 1月	2月	3月
最高(円)	934	930	1,048	1,056	1,050	1,100
最低(円)	850	898	915	982	957	1,030

(注) 株価は、東京証券取引所市場第1部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

男性10名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長兼社長	船 木 俊 之	昭和22年 8月30日生	昭和50年10月 IDEC CORPORATION Executive Vice President 昭和60年7月 当社取締役 平成2年12月 常務取締役 平成6年6月 専務取締役 平成9年6月 代表取締役社長 平成12年4月 代表執行役員(現) 平成14年4月 IDEC CORPORATION Chairman,C.E.O.(現) 平成18年6月 代表取締役会長兼社長(現)	(注)3	436
代表取締役 専務	船 木 幹 雄	昭和28年 1月17日生	昭和54年6月 IDEC CORPORATION入社 平成3年6月 IDEC CORPORATION Vice President 平成5年4月 当社入社 平成9年6月 取締役 平成11年4月 執行役員IT(インフォメーションテクノロジー)担当 平成15年5月 専務取締役 平成15年5月 専務執行役員(現) 平成18年6月 代表取締役専務(現)	(注)3	227
取締役	藤 田 慶 二 郎	昭和21年 12月7日生	昭和52年3月 当社入社 平成4年5月 エリデック株式会社取締役 平成4年6月 取締役 平成9年10月 エリデック株式会社取締役社長 平成10年6月 上級執行役員(現常務執行役員) 平成20年6月 取締役(現)	(注)3	777
取締役	中 川 剛	昭和16年 9月13日生	平成10年6月 株式会社東芝常務 平成12年6月 同社上席常務 平成15年6月 同社取締役執行役専務 平成16年6月 同社取締役代表執行役副社長 平成18年6月 同社常任顧問(現) 平成18年7月 当社顧問 平成19年6月 当社取締役(現)	(注)3	24
取締役	八 田 信 男	昭和21年 12月13日生	平成9年6月 ローム株式会社取締役海外営業本部長 平成15年7月 同社取締役渉外担当 平成16年9月 同社取締役管理本部長 平成21年12月 同社取締役特命担当 平成23年6月 同社チーフアドバイザー 平成24年6月 当社取締役(現)	(注)3	5
取締役	山 本 卓 二	昭和24年 11月26日生	平成7年9月 OMRON MANAGEMENT CENTER OF EUROPE副社長 平成13年6月 オムロン株式会社執行役員 平成15年4月 同社コントロール機器統轄事業部統轄事業部長 平成17年6月 同社執行役員常務 平成21年4月 OMRON MANAGEMENT CENTER OF AMERICA, INC.CEO 平成26年4月 当社顧問(現)	(注)3	1
常勤監査役	古 川 正 行	昭和11年 8月19日生	昭和38年4月 当社入社 昭和63年7月 取締役 平成7年6月 ハイデック株式会社取締役社長 平成8年6月 常勤監査役(現)	(注)4	39

役名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役	谷口弘一	昭和10年 6月8日生	昭和41年10月 公認会計士開業登録 昭和42年2月 税理士開業登録 昭和45年12月 日新監査法人代表社員 昭和61年1月 センチュリー監査法人理事 平成5年5月 センチュリー監査法人常任理事 平成10年5月 センチュリー監査法人副会長 平成16年6月 当社監査役(現)	(注)5	5
監査役	阪本政敬	昭和17年 1月31日生	昭和45年4月 大阪弁護士会登録 昭和61年4月 大阪弁護士会司法修習委員会副委員長 昭和63年4月 大阪弁護士会厚生委員会委員長 平成3年4月 大阪弁護士会副会長 平成10年4月 大阪弁護士会弁護士研修委員長 平成14年6月 日本弁護士連合会研修委員長 平成16年6月 当社監査役(現) 平成17年4月 大阪弁護士会常議員会議長 平成21年11月 大阪府入札監視委員会委員長	(注)6	7
監査役	川人正孝	昭和23年 4月15日生	平成12年7月 社税務署長 平成17年7月 西宮税務署長 平成19年7月 神戸税務署長 平成20年9月 川人正孝税理士事務所開設(現) 平成22年6月 当社監査役(現)	(注)7	4
計					1,528

- (注) 1 取締役中川剛、八田信男及び山本卓二は、社外取締役であります。
- 2 監査役谷口弘一、阪本政敬及び川人正孝は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役古川正行の任期は平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役谷口弘一の任期は平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役阪本政敬の任期は平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役川人正孝の任期は平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 代表取締役会長兼社長舩木俊之は、代表取締役専務舩木幹雄の兄であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、株主をはじめとする利害関係者の方々に対して経営の透明性ならびに経営の効率化を確保することをコーポレート・ガバナンスの基本と考えております。そのために、社外役員を積極的に任用するとともに、経営の監督機能と執行機能の分離を行い、双方の機能間で緊張感を高めることにより、常に経営の透明性と効率性を重視した経営を行っております。

企業統治の体制

イ 企業統治の体制とその体制を採用する理由

当社においては、監査役設置会社制度を採用しており、社会的かつ多角的見地から業務執行の監督機能強化を図り、経営の透明性を確保することを目的として選任した社外取締役と監査役の連携による監査・監督、また、代表取締役及び執行役員による業務執行をベースにした体制をもとに、「執行と監督の分離」を実現させております。

提出日現在、当社の取締役は、社外取締役3名を含む計6名、監査役は、社外監査役3名を含む計4名となっております。

業務執行機能については、各機能責任者である執行役員が参加する執行役員会を開催し、各業務の進捗状況や課題について適宜報告を行い業務執行にあたりるとともに、取締役会からの権限委譲範囲において意思決定を行う経営会議を設け、円滑な業務執行を促し、経営効率の向上を図っております。

また、取締役会においては、前述の社外取締役及び監査役の連携による、公正かつ客観的な監督・監査を行うことにより、適切な企業統治として機能しているものと考えております。

ロ 内部統制システムの整備の状況及びリスク管理体制の整備の状況

当社グループの財務報告に係る内部統制としては、企業会計審議会の公表した実施基準に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

また、コンプライアンス及びリスク管理については、全ての役員、従業員が国内外の法令遵守はもとより、企業倫理に則って行動するための具体的な指針として「危機管理規程及び行動基準」を定め、全役員及び従業員を対象とした研修会を実施する等、コンプライアンス意識の高揚に積極的に取り組んでおります。

また、体制面では、社長を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置し、コンプライアンスに係る体制強化とともに、リスク管理に関する全社基本方針ならびに施策を策定し、リスク発生時の迅速かつ適切な対応を図れる体制を整えております。

内部監査及び監査役監査、会計監査の状況

イ 内部監査の状況

内部監査機能としては、代表取締役会長兼社長の直轄組織として内部監査室を設置しており、社員4名により構成しております。内部監査室は、本社機能を含む各部門の業務、会計、コンプライアンス、事業リスク等の内部監査を定期的実施しており、業務執行のモニタリングと業務運営効率化に向けた適宜的確な助言を行っております。

ロ 監査役監査の状況

監査役監査については、常勤監査役が中心となり、すべての取締役会に出席し、社内各部門に対する巡回監査を実施するなど、取締役及び執行役員の職務執行を十分に監視できる体制を整えております。また、定期的に監査役4名で構成する監査役会を開催しており、業務執行におけるその適法性をモニタリングしております。

ハ 会計監査の状況

会計監査については、会計監査人として有限責任 あずさ監査法人を選任しており、監査業務が期末に偏ることなく、期中監査が定期的実施され、ERPシステムによるコンピュータデータをフルに活用することにより、正確かつ効率的な監査を実施できる環境を整えております。

なお、当社の監査業務を執行した公認会計士は、姫岩康雄、成本弘治の2名であり、いずれも監査継続年数は7年を超えておりません。当社の監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他7名となっております。

二 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携、監査と内部統制実施部門との関係

当社は、監査役監査及び会計監査ならびに内部監査の監査事象について、必要に応じて都度、相互に情報交換を行うことのできる連携体制を整えております。

内部統制実施部門は、内部統制の自己点検結果を内部監査室に報告し、内部監査室は、内部統制の独立的モニタリング結果及び内部監査の実施結果を監査役及び会計監査人に定期的に報告しております。

また、会計監査人は、監査計画に基づき、四半期及び期末決算期の会計監査及び内部統制監査の結果を定期的に監査役及び内部監査室ならびに経営管理部（内部統制実施部門の主管部門）へ報告しております。

社外取締役及び社外監査役

イ 会社と社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的关系または取引関係その他の利害関係

当社では、社外取締役3名及び社外監査役3名を選任しており、それら社外取締役及び社外監査役とともに、当社及び当社子会社ならびに当社及び当社子会社役員との取引関係その他の利害関係はなく、一般株主との利益相反の恐れがない独立的な立場であると判断しております。

ロ 社外取締役及び社外監査役が当社企業統治において果たす役割と選任状況についての当社の考え方

社外取締役につきましては、中川剛は、経営に関する豊富な経験と高い見識を有しており、それらに基づく有益な助言により、独立性を持って当社の経営に対する監督機能を強化していただけるものと考え、選任しております。当社の取引先である株式会社東芝の出身であります。同社との平成26年度における取引規模は連結売上高の1%未満で、株主・投資者の判断に影響を及ぼす恐れはないと判断される軽微なものであり、独立性に問題はございません。また、八田信男は、海外事業に関する豊富な知識と経験を有しており、それらに基づく有益な助言により、独立性を持って、当社の経営体制の強化につながるものと考え、選任しております。当社の取引先であるローム株式会社の出身であります。同社との平成26年度における取引規模は連結売上高の1%未満で、株主・投資者の判断に影響を及ぼす恐れはないと判断される軽微なものであり、独立性に問題はございません。山本卓二は、事業戦略に関する豊富な知識と経験を有しており、それらに基づく有益な助言により、独立性を持って、当社の経営体制の強化につながるものと考え、選任しております。

社外監査役につきましては、谷口弘一は公認会計士であり、また、川人正孝は税理士であり、ともに財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、当該観点から当社の監査体制の強化に寄与いただくため、選任しております。また、阪本政敬は弁護士であり、その高い見識や経験に基づく厳格且つ公正な業務執行の監督能力をもって、法務的観点から当社監査体制の強化に寄与いただくため、選任しております。

当社では積極的に社外役員を任用しており、その際には高度な専門的知識を有する方、経営および業務執行に関する豊富な経験と高い見識のある方を選任しております。また、社外役員が以下のいずれにも該当する場合、独立性を有するものと考えております。

- (1) 当社（当社グループ会社含む、以下同じ）の業務執行者ではないこと。
- (2) 当社を主要な取引先とする者またはその業務執行者ではないこと。
- (3) 当社の主要な取引先またはその業務執行者ではないこと。
- (4) 当社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家または法律専門家（それらが法人、組合等の団体である場合は、当該団体に所属する者）ではないこと。
- (5) 当社から一定額以上の寄付または助成を受けている者ではないこと。
- (6) 当社の大株主、またはその業務執行者ではないこと。
- (7) 取締役または監査役に選任される前の5年間に上記(1)から(6)に該当していないこと。
- (8) 上記(1)から(6)のいずれかに該当する者の配偶者または二親等以内の親族ではないこと。

ハ 社外取締役または社外監査役による監督または監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携ならびに内部統制実施部門との関係

内部統制実施部門及び内部監査室ならびに会計監査人からの重要事項については、取締役会を通じて、当社の社外取締役及び社外監査役に報告がなされており、独立性の高い相互がそれぞれ連携することにより、監督と監査が十分に機能しているものと考えております。

また、当社監査役の過半数を占める社外監査役は、監査役会及び会計監査人の報告会に出席し、監査役監査及び会計監査人の監査の結果報告を受け、適宜必要な発言を行っております。

役員報酬

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員の員数(名)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	188	188				3
監査役 (社外監査役を除く。)	6	6				1
社外役員	19	19				6

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

氏名	連結報酬等の総額(百万円)	役員区分	会社区分	連結報酬等の種類別の額(百万円)			
				基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金
船木 俊之	111	取締役	提出会社	45			
		取締役	連結子会社 IDEC CORPORATION	65			

(注) 連結報酬等の総額が1億円以上である者に限定して記載しております。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

当社は、取締役の使用人兼務部分に対する報酬は支給しておりません。

二 役員報酬等の額の決定に関する方針

当社は、取締役の報酬限度額については、平成23年6月17日開催の第64期定時株主総会において、年額3億6千万円以内と決議しております。また、監査役の報酬限度額は、平成4年6月26日開催の第45期定時株主総会において、月額4百万円以内と決議しております。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項に定める賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、法定の規定する額としております。

取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社意思決定の迅速化と機動性を確保することを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

当社は、取締役及び監査役が職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議をもって免除することができる旨定款に定めております。

さらに当社は、剰余金の配当、自己株式の取得等会社法第459条第1項各号に掲げる事項について、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨、また、それを株主総会によっては定めない旨定款に定めております。これは、機動的な配当政策及び資本政策を遂行するためであります。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 11銘柄
貸借対照表計上額の合計額 1,050百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)オブテックス	170,000	302	業務提携
(株)高見沢サイバネティックス	450,000	127	同上
オブテックス・エフエー(株)	200,000	123	同上
テクノホライゾン・ ホールディングス(株)	404,860	60	同上
加賀電子(株)	41,400	58	同上
(株)ダイフク	13,253	16	取引関係強化のため
(株)進和	5,683	7	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル グループ	300	0	同上
(株)三井住友フィナンシャル グループ	39	0	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	570	0	同上

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)オブテックス	170,000	417	業務提携
オブテックス・エフエー(株)	200,000	154	同上
(株)ダイフク	87,858	139	取引関係強化のため
(株)高見沢サイバネティックス	450,000	130	業務提携
テクノホライゾン・ ホールディングス(株)	404,860	112	同上
加賀電子(株)	41,400	60	同上
レシップ(株)	37,588	32	取引関係強化のため
大垣共立銀行	5,000	1	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル グループ	300	0	同上
(株)三井住友フィナンシャル グループ	39	0	同上
(株)みずほフィナンシャルグループ	570	0	同上

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査証明業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	43		43	
連結子会社				3
計	43		43	3

【その他の重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

連結子会社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、内部統制等のアドバイザー・サービス業務であります。

【監査報酬の決定方針】

会社の規模・特性・監査日数等を勘案した上で、決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の変更等についての正確な情報の入手や各種研修会への参加を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,743	7,995
受取手形及び売掛金	5,919	6,816
有価証券	1,133	841
商品及び製品	3,741	5,459
仕掛品	1,138	1,177
原材料及び貯蔵品	2,677	2,395
繰延税金資産	641	754
その他	727	812
貸倒引当金	39	41
流動資産合計	23,683	26,212
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,010	9,056
機械装置及び運搬具（純額）	778	1,182
工具、器具及び備品（純額）	992	842
土地	7,591	8,254
リース資産（純額）	244	238
建設仮勘定	285	292
有形固定資産合計	1 18,903	1 19,867
無形固定資産		
ソフトウェア	392	304
リース資産	3	0
のれん	370	426
その他	85	98
無形固定資産合計	851	831
投資その他の資産		
投資有価証券	2 857	2 1,179
長期貸付金	603	530
繰延税金資産	416	200
その他	560	599
貸倒引当金	97	42
投資その他の資産合計	2,339	2,467
固定資産合計	22,095	23,165
資産合計	45,778	49,378

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,373	3,280
電子記録債務		1,359
短期借入金	5,897	6,310
1年内返済予定の長期借入金	83	192
リース債務	127	100
未払法人税等	293	674
未払金	773	931
未払費用	1,465	1,540
前受金	873	92
預り金	733	678
その他	272	185
流動負債合計	14,893	15,345
固定負債		
社債		50
長期借入金	25	208
リース債務	132	155
退職給付に係る負債	1,435	1,035
役員退職慰労引当金	57	68
資産除去債務	66	88
長期未払金	138	77
その他		3
固定負債合計	1,856	1,687
負債合計	16,749	17,032
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,722	9,721
利益剰余金	16,139	17,587
自己株式	7,045	6,859
株主資本合計	28,873	30,506
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	117	295
為替換算調整勘定	72	1,389
退職給付に係る調整累計額	117	69
その他の包括利益累計額合計	72	1,615
新株予約権	61	14
少数株主持分	166	209
純資産合計	29,029	32,345
負債純資産合計	45,778	49,378

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
売上高	36,319	42,173
売上原価	1 20,913	1 25,056
売上総利益	15,406	17,117
販売費及び一般管理費	2、3 13,063	2、3 14,207
営業利益	2,342	2,910
営業外収益		
受取利息	22	28
受取配当金	16	15
持分法による投資利益	8	
為替差益	103	231
受取賃貸料	97	108
その他	90	101
営業外収益合計	338	484
営業外費用		
支払利息	59	45
持分法による投資損失		7
減価償却費	94	74
支払補償費		26
その他	44	79
営業外費用合計	198	234
経常利益	2,482	3,160
特別利益		
固定資産売却益	4 7	4 3
負ののれん発生益	15	
退職給付制度終了益	101	
新株予約権戻入益		26
特別利益合計	123	29
特別損失		
段階取得に係る差損	8	
固定資産売却損	5 11	5 2
減損損失	7 211	7 30
固定資産廃棄損	6 24	6 1
特別損失合計	255	34
税金等調整前当期純利益	2,350	3,155
法人税、住民税及び事業税	811	1,110
法人税等調整額	67	71
法人税等合計	878	1,039
少数株主損益調整前当期純利益	1,471	2,116
少数株主利益	15	20
当期純利益	1,456	2,096

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,471	2,116
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	109	178
為替換算調整勘定	782	1,485
退職給付に係る調整額		47
その他の包括利益合計	1,892	1,712
包括利益	2,364	3,828
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,339	3,784
少数株主に係る包括利益	25	44

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,056	9,690	15,567	7,519	27,795
当期変動額					
剰余金の配当			884		884
当期純利益			1,456		1,456
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		31		473	505
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					
当期変動額合計		31	572	473	1,077
当期末残高	10,056	9,722	16,139	7,045	28,873

	その他の包括利益累計額				新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘 定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計			
当期首残高	7	844		837	64	142	27,165
当期変動額							
剰余金の配当							884
当期純利益							1,456
自己株式の取得							0
自己株式の処分							505
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	109	772	117	765	3	24	785
当期変動額合計	109	772	117	765	3	24	1,863
当期末残高	117	72	117	72	61	166	29,029

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	10,056	9,722	16,139	7,045	28,873
会計方針の変更による累積的影響額			254		254
会計方針の変更を反映した当期首残高	10,056	9,722	16,394	7,045	29,127
当期変動額					
剰余金の配当			903		903
当期純利益			2,096		2,096
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		1		187	186
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計		1	1,192	186	1,378
当期末残高	10,056	9,721	17,587	6,859	30,506

	その他の包括利益累計額				新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	117	72	117	72	61	166	29,029
会計方針の変更による累積的影響額							254
会計方針の変更を反映した当期首残高	117	72	117	72	61	166	29,284
当期変動額							
剰余金の配当							903
当期純利益							2,096
自己株式の取得							0
自己株式の処分							186
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	178	1,461	47	1,687	47	42	1,683
当期変動額合計	178	1,461	47	1,687	47	42	3,061
当期末残高	295	1,389	69	1,615	14	209	32,345

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,350	3,155
減価償却費	1,699	1,677
減損損失	211	30
のれん償却額	9	59
負ののれん発生益	15	
貸倒引当金の増減額（ は減少）	4	59
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	347	45
受取利息及び受取配当金	38	43
支払利息	59	45
為替差損益（ は益）	1	18
持分法による投資損益（ は益）	8	7
固定資産売却損益（ は益）	3	0
固定資産廃棄損	24	1
売上債権の増減額（ は増加）	274	69
たな卸資産の増減額（ は増加）	484	754
前受金の増減額（ は減少）	831	780
未収入金の増減額（ は増加）	59	24
仕入債務の増減額（ は減少）	782	719
未払金の増減額（ は減少）	165	116
預り金の増減額（ は減少）	218	57
長期未払金の増減額（ は減少）	134	61
その他	206	39
小計	5,694	2,698
利息及び配当金の受取額	38	43
利息の支払額	61	53
法人税等の支払額	1,037	763
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,633	1,925
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	1,103	
有価証券の売却による収入		441
有形固定資産の取得による支出	1,927	1,375
有形固定資産の売却による収入	1,404	22
無形固定資産の取得による支出	242	154
投資有価証券の取得による支出	0	
投資有価証券の売却による収入	0	6
長期貸付けによる支出	600	22
長期貸付金の回収による収入	3	24
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	7	122
その他	19	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,493	1,169

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	800	214
長期借入金の返済による支出	133	213
自己株式の取得による支出	0	0
ストックオプションの行使による収入	53	157
配当金の支払額	884	900
少数株主への配当金の支払額	1	1
リース債務の返済による支出	163	147
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,929	891
現金及び現金同等物に係る換算差額	339	387
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	549	252
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	162	
現金及び現金同等物の期首残高	7,031	7,743
現金及び現金同等物の期末残高	1 7,743	1 7,995

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 24社

連結子会社の名称

- (1) I D E C システムズ&コントロールズ株式会社
- (2) I D E C ロジスティクスサービス株式会社
- (3) I D E C エンジニアリングサービス株式会社
- (4) I D E C AUTO-ID SOLUTIONS 株式会社
- (5) 株式会社コーネット
- (6) 株式会社コーネットシステム
- (7) I D E C CORPORATION
- (8) I D E C CANADA, LTD.
- (9) I D E C Australia Pty. Ltd.
- (10) I D E C Elektrotechnik GmbH
- (11) I D E C Electronics Limited
- (12) I D E C IZUMI ASIA PTE LTD.
- (13) I D E C ASIA (THAILAND) CO., LTD.
- (14) 台湾愛徳克股份有限公司
- (15) 台湾和泉電気股份有限公司
- (16) 台湾科奈徳股份有限公司
- (17) 蘇州和泉電気有限公司
- (18) I D E C HONG KONG CO., LTD.
- (19) I D E C IZUMI (H. K.) CO., LTD.
- (20) 愛徳克電気貿易(上海)有限公司
- (21) 和泉電気自動化控制(深圳)有限公司
- (22) 和泉電気(北京)有限公司
- (23) 愛徳克電子科技(上海)有限公司
- (24) 太倉科奈徳電気有限公司

連結子会社である I D E C DATA LOGIC 株式会社は、同じく連結子会社であったデータロジック A D C 株式会社を吸収合併し、I D E C AUTO-ID SOLUTIONS 株式会社に社名を変更しております。

なお、株式会社コーネット、株式会社コーネットシステムは株式を取得したため、その他子会社 2 社を含め、連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の数 1社

佐用・I D E C メガソーラー有限責任事業組合

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

連結子会社のうち台湾科奈徳股份有限公司、蘇州和泉電気有限公司、愛徳克電気貿易(上海)有限公司、和泉電気自動化控制(深圳)有限公司、和泉電気(北京)有限公司、愛徳克電子科技(上海)有限公司及び太倉科奈徳電気有限公司の 7 社の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたって、これらの会社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

・時価のある有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のない有価証券

移動平均法による原価法

たな卸資産

主として総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

デリバティブ取引

・時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

有形固定資産(リース資産を除く)

I D E C (株)及び国内連結子会社は、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法)を採用し、在外連結子会社については、主として定額法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8年～38年

機械装置及び運搬具 2年～17年

工具器具及び備品 2年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間(主として5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、主として一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用及び数理計算上の差異の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間（12年～13年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間（12年～15年）による定額法により、翌事業年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんはその効果が発現すると見積もられる期間（4年～10年）で均等償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なりスクしか負わない短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理について、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準等」の適用

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る負債が395百万円減少し、利益剰余金が254百万円増加しております。なお、当連結会計年度の営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益、1株当たり純資産、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益への影響は軽微であります。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	24,698百万円	25,950百万円

2 関連会社に対するものは以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
投資有価証券(出資金)	143百万円	91百万円

(連結損益計算書関係)

1 期末たな卸高は収益性の低下による簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
	66百万円	156百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
給料	4,414百万円	4,789百万円
賞与	714 "	754 "
退職給付費用	298 "	494 "
減価償却費	862 "	846 "
賃借料	687 "	764 "
研究開発費	1,857 "	2,110 "

3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
	1,857百万円	2,110百万円

4 固定資産売却益の内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物及び構築物	3 百万円	百万円
機械装置及び運搬具	0 "	2 "
工具、器具及び備品	3 "	1 "
計	7 百万円	3 百万円

5 固定資産売却損の内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物及び構築物	百万円	2 百万円
機械装置及び運搬具	"	0 "
工具、器具及び備品	0 "	"
土地	10 "	"
計	11 百万円	2 百万円

6 固定資産廃棄損の内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
建物及び構築物	17 百万円	0 百万円
機械装置及び運搬具	0 "	0 "
工具、器具及び備品	5 "	0 "
計	24 百万円	1 百万円

7 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

場所	用途	種類	金額
富山県射水市	処分予定資産	土地	135 百万円
大阪市淀川区	処分予定資産	土地	75 "
合計			211 百万円

当社グループは資産を用途により事業用資産、賃貸用資産及び共用資産にグルーピングしており、処分予定資産については、当該資産ごとにグルーピングしております。

処分予定資産については、売却方針の決定及び事業の用に供さないことが明らかになったため、帳簿価格を正味売却価額まで減額し、当該減少額211百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却可能価額は売却予定価額により算定しております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

場所	用途	種類	金額
静岡県浜松市	処分予定資産	建設仮勘定	30 百万円

当社グループは資産を用途により事業用資産、賃貸用資産及び共用資産にグルーピングしており、処分予定資産については、当該資産ごとにグルーピングしております。

処分予定資産については、事業の用に供さないことが明らかになったため、帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額30百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

回収可能価額は正味売却価額を使用しており、売却が困難であるためゼロとしております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	170百万円	233百万円
組替調整額	"	"
税効果調整前	170 "	233 "
税効果額	60 "	54 "
その他有価証券評価差額金	109 "	178 "
為替換算調整勘定		
当期発生額	782 "	1,485 "
退職給付に係る調整額		
当期発生額	"	29 "
組替調整額	"	57 "
税効果調整前	"	86 "
税効果額	"	38 "
退職給付に係る調整額	"	47 "
その他の包括利益合計	892百万円	1,712百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	38,224			38,224

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	8,761	0	556	8,213

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、株式交換による減少477千株、新株予約権の権利行使による減少78千株であります。

3. 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権					61	
合計						61	

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年5月10日取締役会	普通株式	441	15	平成25年3月31日	平成25年5月27日
平成25年11月1日取締役会	普通株式	442	15	平成25年9月30日	平成25年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

次のとおり、議決しております。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月9日取締役会	普通株式	利益剰余金	450	15	平成26年3月31日	平成26年5月26日

(株主資本の著しい変動)

当社は、平成25年11月18日開催の取締役会決議に基づき、平成25年12月20日付で、I D E C D A T A L O G I C 株式会社及びデータロジックA D C 株式会社を完全子会社とする株式交換を実施しました。これにより、当連結累計期間において、利益剰余金が227百万円減少し、自己株式が410百万円減少しております。この結果、当連結会計期間末において利益剰余金が16,139百万円、自己株式が7,045百万円となっております。

当連結会計年度（自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日）

1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	38,224			38,224

2．自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	8,213		220	7,992

（変動事由の概要）

減少数の内訳は、新株予約権の権利行使による減少220千株であります。

3．新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権					14	
合計						14	

4．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年 5月 9日 取締役会	普通株式	450	15	平成26年 3月31日	平成26年 5月26日
平成26年10月31日 取締役会	普通株式	453	15	平成26年 9月30日	平成26年12月 1日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

次のとおり、議決しております。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年 5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	604	20	平成27年 3月31日	平成27年 5月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	7,743百万円	7,995百万円
現金及び現金同等物	7,743百万円	7,995百万円

なお、預入期間が3ヵ月を超える預金が含まれていないため「現金及び預金」勘定と「現金及び現金同等物」期末残高は一致しております。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)
 重要性が乏しいため、注記を省略しております。
2. オペレーティング・リース取引
 該当事項はありません。

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、また、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

営業債権である受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクについては、与信管理規程に基づきリスク低減を図っております。外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されていますが、将来の為替変動リスクを回避するため、為替予約取引を利用しております。

また、投資有価証券は、主に取引先企業との業務または資本提携に関連する株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、全て1年以内の支払期日であります。また、外貨建ての営業債務は、為替リスクに晒されていますが、恒常的に同じ通貨単位の売掛金残高の範囲内にあります。デリバティブ取引については、通常の取引の範囲内で外貨建ての営業債権債務に係る将来の為替変動リスクを回避する目的で為替予約取引を利用しており、1年を超える長期契約及び投機的な取引は行わないこととしております。また、当社の為替予約取引の契約先はいずれも信用度の高い国内の銀行であるため、相手方の契約不履行によるリスクはほとんどないと認識しております。なお、デリバティブ取引は、トップマネジメント会議で決定された方針にもとづき担当役員が統括し、経営管理部が取引の実行及び管理を行っており、取引の都度その実施状況を社長に報告することとしております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成26年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	7,743	7,743	
(2) 受取手形及び売掛金	5,919	5,919	
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,133	1,133	
その他の有価証券	697	697	
資産計	15,494	15,494	
(1) 支払手形及び買掛金	(4,373)	(4,373)	
(2) 短期借入金	(5,897)	(5,897)	
負債計	(10,271)	(10,271)	
デリバティブ取引			
デリバティブ取引計			

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、ならびに (2) 受取手形及び売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、満期保有目的の債券は短期間で決済されるため、時価は帳簿価格とほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、ならびに(2)短期借入金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

当連結会計年度末日現在でデリバティブ取引によって正味の債権・債務は生じておりません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	159

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローが約定されておらず時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	7,743			
受取手形及び売掛金	5,919			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	1,133			
合計	14,796			

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、また、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。

営業債権である受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクについては、与信管理規程に基づきリスク低減を図っております。外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されていますが、将来の為替変動リスクを回避するため、為替予約取引を利用しております。

また、投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携に関連する株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、全て1年以内の支払期日であります。また、外貨建ての営業債務は、為替リスクに晒されていますが、恒常的に同じ通貨単位の売掛金残高の範囲内にあります。

デリバティブ取引については、通常取引の範囲内で外貨建ての営業債権債務に係る将来の為替変動リスクを回避する目的で為替予約取引を利用しており、1年を超える長期契約及び投機的な取引は行わないこととしております。また、当社の為替予約取引の契約先はいずれも信用度の高い国内の銀行であるため、相手方の契約不履行によるリスクはほとんどないと認識しております。なお、デリバティブ取引は、トップマネジメント会議で決定された方針にもとづき担当役員が統括し、経営管理部が取引の実行及び管理を行っており、取引の都度その実施状況を社長に報告することとしております。

2 金融商品の時価等に関する事項

平成27年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	7,995	7,995	
(2) 受取手形及び売掛金	6,816	6,816	
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	841	841	
その他の有価証券	1,050	1,050	
資産計	16,704	16,704	
(1) 支払手形及び買掛金	(3,280)	(3,280)	
(2) 電子記録債務	(1,359)	(1,359)	
(3) 短期借入金	(6,310)	(6,310)	
負債計	(10,950)	(10,950)	
デリバティブ取引			
デリバティブ取引計			

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、ならびに (2) 受取手形及び売掛金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、満期保有目的の債券は短期間で決済されるため、時価は帳簿価格とほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、ならびに(3) 短期借入金

これらは、短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

当連結会計年度末日現在でデリバティブ取引によって正味の債権・債務は生じておりません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式	129

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローが約定されておらず時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	7,995			
受取手形及び売掛金	6,816			
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	841			
合計	15,654			

(有価証券関係)

前連結会計年度

満期保有目的の債券(平成26年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの 譲渡性預金			
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの 譲渡性預金	1,133	1,133	
合計	1,133	1,133	

その他有価証券(平成26年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの 株式	637	439	197
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの 株式	60	75	15
合計	697	515	182

当連結会計年度

満期保有目的の債券(平成27年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの 譲渡性預金			
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの 譲渡性預金	841	841	
合計	841	841	

その他有価証券(平成27年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの 株式	1,048	569	479
連結貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの 株式	40	41	1
合計	1,088	610	478

連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：百万円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	6	0	
合計	6	0	

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は、平成17年7月に従来の適格退職年金制度を廃止し、キャッシュバランスプラン(市場金利連動型年金)及び確定拠出型年金制度へ移行することを決定し、新制度へ移行しております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、主要な海外連結子会社においては、確定拠出型の退職給付制度を設けております。

当社グループは上記以外に、複数事業主制度の厚生年金基金制度に加入しており、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
退職給付債務の期首残高	4,622	3,557
会計方針の変更による累積的影響額		395
会計方針の変更を反映した期首残高	4,622	3,162
勤務費用	185	199
利息費用	42	26
数理計算上の差異の発生額	44	28
退職給付の支払額	123	166
確定給付制度の一部終了に伴う減少	1,232	
連結子会社の増加に伴う増加	87	23
その他	18	38
退職給付債務の期末残高	3,557	3,254

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
年金資産の期首残高	2,677	2,121
期待運用収益	39	42
数理計算上の差異の発生額	12	0
事業主からの拠出額	129	131
退職給付の支払額	71	106
確定給付制度の一部終了に伴う減少	702	
連結子会社の増加に伴う増加	49	
その他	12	28
年金資産の期末残高	2,121	2,218

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	2,212	2,043
年金資産	2,121	2,218
	90	174
非積立型制度の退職給付債務	1,345	1,210
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,435	1,035
退職給付に係る負債	1,435	1,035
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,435	1,035

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
勤務費用	185	199
利息費用	42	26
期待運用収益	39	42
数理計算上の差異の費用処理額	55	53
過去勤務費用の費用処理額	0	1
確定給付制度に係る退職給付費用	244	235

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
過去勤務費用		1
数理計算上の差異		87
合計		86

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(百万円)	
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
未認識過去勤務費用	11	10
未認識数理計算上の差異	203	115
合計	191	105

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
一般勘定	72%	71%
国内債権	12%	14%
現金及び預金	9%	10%
外国債券	3%	1%
外国株式	%	2%
その他	4%	2%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
割引率	1.15～2.0%	0.7～2.0%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度204百万円、当連結会計年度198百万円であります。

4 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、285百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況(平成26年3月31日現在)

年金資産の額	78,327 百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	84,776 百万円
差引額	6,449 百万円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

7.6%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政上の未償却過去勤務債務残高12,179百万円及び別途積立金5,026百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 当連結会計年度における費用計上額及び科目名

販売費及び一般管理費 6百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第8回新株予約権	第9回新株予約権
決議年月日	平成21年6月12日	平成22年6月18日
付与対象者の区分及び数	当社従業員(837名) 当社子会社取締役(7名)	当社従業員(35名)
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 488,000株	普通株式 38,000株
付与日	平成21年7月1日	平成22年7月1日
権利確定条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第8回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第9回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	定めておりません。	定めておりません。
権利行使期間	平成24年7月1日から 平成26年6月30日まで	平成24年7月1日から 平成26年6月30日まで

	第10回新株予約権	第11回新株予約権
決議年月日	平成24年6月15日	平成25年6月14日
付与対象者の区分及び数	当社従業員(36名)	当社従業員(39名)
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 42,100株	普通株式 49,000株
付与日	平成24年7月1日	平成25年7月1日
権利確定条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第10回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第11回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	定めておりません。	定めておりません。
権利行使期間	平成26年7月1日から 平成28年6月30日まで	平成27年7月1日から 平成29年6月30日まで

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算しております。

ストック・オプションの数

	第 8 回新株予約権	第 9 回新株予約権	第10回新株予約権
決議年月日	平成21年 6 月12日	平成22年 6 月18日	平成24年 6 月15日
権利確定前(株)			
期首			42,100
付与			
失効			
権利確定			
未確定残			42,100
権利確定後(株)			
期首	445,200	35,300	
権利確定			
権利行使	73,500	900	
失効	3,100		
未行使残	368,600	34,400	

	第11回新株予約権
決議年月日	平成25年 6 月14日
権利確定前(株)	
期首	
付与	49,000
失効	
権利確定	
未確定残	49,000
権利確定後(株)	
期首	
権利確定	
権利行使	
失効	
未行使残	

単価情報

	第8回新株予約権	第9回新株予約権	第10回新株予約権
権利行使価格(円)	718	773	740
行使時平均株価(円)	895	911	
付与日における 公正な評価単価(円)	126	158	160

	第11回新株予約権
権利行使価格(円)	957
行使時平均株価(円)	
付与日における 公正な評価単価(円)	150

3 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した算定技法

ブラック・ショールズ式

(2) 使用した主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性 30.20%

予想残存期間 3年

十分なデータの蓄積が無く、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

無リスク利子率 0.13%

予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 当連結会計年度における費用計上額及び科目名

販売費及び一般管理費 7百万円

2 権利不行使による失効により利益として計上した金額

新株予約権戻入益 26百万円

3 ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) ストック・オプションの内容

	第8回新株予約権	第9回新株予約権
決議年月日	平成21年6月12日	平成22年6月18日
付与対象者の区分及び数	当社従業員(837名) 当社子会社取締役(7名)	当社従業員(35名)
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 488,000株	普通株式 38,000株
付与日	平成21年7月1日	平成22年7月1日
権利確定条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第8回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第9回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	定めておりません。	定めておりません。
権利行使期間	平成24年7月1日から 平成26年6月30日まで	平成24年7月1日から 平成26年6月30日まで

	第10回新株予約権	第11回新株予約権
決議年月日	平成24年6月15日	平成25年6月14日
付与対象者の区分及び数	当社従業員(36名)	当社従業員(39名)
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 42,100株	普通株式 49,000株
付与日	平成24年7月1日	平成25年7月1日
権利確定条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第10回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第11回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	定めておりません。	定めておりません。
権利行使期間	平成26年7月1日から 平成28年6月30日まで	平成27年7月1日から 平成29年6月30日まで

第12回新株予約権	
決議年月日	平成26年6月13日
付与対象者の区分及び数	当社従業員(36名)
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 44,500株
付与日	平成26年7月1日
権利確定条件	権利行使時においても、当社ならびに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他正当な理由のある場合はこの限りではない。 その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「第12回新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	定めておりません。
権利行使期間	平成28年7月1日から 平成30年6月30日まで

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算しております。

ストック・オプションの数

	第8回新株予約権	第9回新株予約権	第10回新株予約権
決議年月日	平成21年6月12日	平成22年6月18日	平成24年6月15日
権利確定前(株)			
期首			42,100
付与			
失効			
権利確定			42,100
未確定残			
権利確定後(株)			
期首	368,600	34,400	
権利確定			42,100
権利行使	182,100	22,200	13,100
失効	186,500	12,200	
未行使残			29,000

	第11回新株予約権	第12回新株予約権
決議年月日	平成25年 6月14日	平成26年 6月13日
権利確定前(株)		
期首	49,000	
付与		44,500
失効		1,000
権利確定		
未確定残	49,000	43,500
権利確定後(株)		
期首		
権利確定		
権利行使		
失効		
未行使残		

単価情報

	第 8 回新株予約権	第 9 回新株予約権	第10回新株予約権
権利行使価格(円)	718	773	740
行使時平均株価(円)	911	911	959
付与日における 公正な評価単価(円)	126	158	160

	第11回新株予約権	第12回新株予約権
権利行使価格(円)	957	969
行使時平均株価(円)		
付与日における 公正な評価単価(円)	150	191

4 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した算定技法

ブラック・ショールズ式

(2) 使用した主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性 22.56%

予想残存期間 3年

十分なデータの蓄積が無く、合理的な見積が困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

無リスク利子率 0.06%

予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

5 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積が困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	22百万円	50百万円
たな卸資産	306 "	388 "
貸倒引当金	58 "	27 "
有形固定資産	45 "	90 "
投資有価証券	54 "	55 "
未払費用	291 "	299 "
資産除去債務	20 "	26 "
退職給付に係る負債	566 "	321 "
繰越欠損金	63 "	76 "
その他	113 "	136 "
繰延税金資産小計	1,541百万円	1,471百万円
評価性引当額	140 "	101 "
繰延税金資産合計	1,401百万円	1,370百万円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	273百万円	247百万円
資産除去債務に対応する 資産除去費用	4 "	10 "
その他有価証券評価差額金	64 "	139 "
留保利益に係る税効果	"	17 "
繰延税金負債合計	343 "	415 "
繰延税金資産純額	1,058百万円	954百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率		35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		2.1%
住民税均等割等		1.6%
在外子会社の留保利益		0.3%
税額控除		6.2%
在外子会社の税率差異		3.9%
評価性引当額の変動		0.9%
のれん償却額		1.9%
税率変更による影響		1.8%
その他		1.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		32.9%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税率等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に交付されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.02%、平成28年4月1日以降のものについては32.22%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が45百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が56百万円増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 株式取得の目的

当社の基盤事業である制御機器事業およびシステム事業の強化の観点から、制御ソリューションの技術基盤を持つコーネットグループを当社の子会社とすることにより、生産性アップ、省力化・省人化・省エネ化、そして安全を標榜する顧客ニーズに対応する最適制御システム製品の提供や、エンジニアリング対応などを機動的・タイムリーに行っていくことを目的としております。

2. 被取得企業の名称、事業内容、規模

被取得企業の名称	株式会社コーネット
事業の内容	電子機器・制御機器の受託生産および派遣業務
資本金の額	33百万円
被取得企業の名称	株式会社コーネットシステム
事業の内容	制御設計・P L C 設計開発およびコンピュータソフトウェア設計開発
資本金の額	10百万円

3. 企業結合日

平成26年 5 月30日

4. 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年 7 月 1 日から平成27年 3 月31日まで

5. 取得した株式の数、取得価額および取得した議決権比率

株式会社コーネット	
取得した株式の数	66,640 株
取得の対価	325 百万円
取得に直接要した費用	24 "
取得原価	349 百万円
取得した持分比率	100 %
株式会社コーネットシステム	
取得した株式の数	200 株
取得の対価	60 百万円
取得した持分比率	100 %

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

発生したのれん

113百万円

発生原因

株式の取得価額が受け入れた資産及び引き受けた負債の純額を上回ったため、その差額をのれんとして処理しております。

償却方法および償却期間

4 年間にわたる均等償却

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主として制御機器関連製品の製造及び販売を行っております。製造については、当社が主に行っており、アジア・パシフィックの海外子会社3社より一部の製品及び部品の供給を受けております。国内市場への販売は当社及び国内グループ会社が行っており、海外市場への販売は、主にその地域の海外子会社により販売を行っております。現地法人は、それぞれ独立した経営単位であり、各地域に適した戦略を立案し事業戦略を展開しております。

したがって、当社グループは、製造・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「北米」、「欧州」及び「アジア・パシフィック」の4つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額の算定方法

報告セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であり、セグメント間の内部取引及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	欧州	アジア・パシフィック	
売上高					
外部顧客に対する売上高	24,591	4,943	793	5,992	36,319
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,463	85	0	3,246	6,795
計	28,054	5,028	793	9,238	43,115
セグメント利益	1,123	412	66	661	2,264
セグメント資産	34,094	5,486	534	8,011	48,127
その他の項目					
減価償却費	1,441	92	0	164	1,699
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	969	75	0	357	1,403

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	北米	欧州	アジア・パシフィック	
売上高					
外部顧客に対する売上高	28,730	5,742	856	6,843	42,173
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,275	49	0	4,380	8,705
計	33,006	5,792	856	11,223	50,879
セグメント利益	1,489	506	52	805	2,854
セグメント資産	39,868	6,135	534	8,884	55,422
その他の項目					
減価償却費	1,370	117	0	188	1,677
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,724	45	0	67	1,837

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	43,115	50,879
セグメント間取引消去	6,795	8,705
連結財務諸表の売上高	36,319	42,173

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,264	2,854
セグメント間取引消去	78	56
連結財務諸表の営業利益	2,342	2,910

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	48,127	55,422
セグメント間調整額	3,430	7,349
全社資産(注)	1,082	1,305
連結財務諸表の資産合計	45,778	49,378

(注) 全社資産は主に当社の余資運用資金(現金及び預金)及び長期投資資金(投資有価証券)等であります。

(単位:百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額(注)		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	1,699	1,677					1,699	1,677
有形固定資産及び 無形固定資産の 増加額	1,403	1,837				76	1,403	1,761

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は主にセグメント間取引消去であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	制御機器製品	制御装置及び F Aシステム 製品	制御用周辺機 器製品	防爆・防災関 連機器製品	その他の製品	合計
外部顧客への売上高	19,416	4,301	4,930	1,594	6,076	36,319

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	北米	欧州	アジア・ パシフィック	合計
16,368	1,521	2	1,011	18,903

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	制御機器製 品	制御装置及 びF Aシス テム製品	制御用周辺 機器製品	防爆・防災 関連機器製 品	環境事業製 品	その他の製 品	合計
外部顧客への売上高	22,572	6,162	5,206	1,605	4,791	1,835	42,173

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	北米	欧州	アジア・ パシフィック	合計
17,160	1,696	1	1,007	19,867

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア・ パシフィック	全社・消去	合計
減損損失	211					211

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア・ パシフィック	全社・消去	合計
減損損失	30					30

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア・ パシフィック	全社・消去	合計
当期償却額	9					9
当期末残高	370					370

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア・ パシフィック	全社・消去	合計
当期償却額	56			3		59
当期末残高	411			15		426

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当連結会計年度において、日本において15百万円の負ののれん発生益を計上しております。これは、I D E C DATA LOGIC (株)を完全子会社化したことによるものであります。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の関連当事者との取引

種類	会社等の名称又は名前	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
関連会社	佐用・IDECメガソーラー有限責任事業組合	兵庫県佐用郡	300	太陽光発電業	直接50.0	役務の提供組合員兼務	資金の貸付	600	長期貸付金	600
							受取利息	1		

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等、資金の貸付については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

種類	会社等の名称又は名前	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員 の近親者 所有の 会社	(有)船木興産	大阪府箕面市	10	不動産管理業		工事受注	設備工事の請負	14		
子会社 の役員 の親近者 所有の 会社	(株)アーサーバイオ	大阪市	10	技術提供業		業務の委託契約	業務の委託料の支払	19	買掛金	15

(注) 1 上記取引金額には、消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方法等

上記取引条件の決定にあたっては、一般の取引条件と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の関連当事者との取引

種類	会社等の名称又は名前	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
関連会社	佐用・IDECメガソーラー有限責任事業組合	兵庫県佐用郡	300	太陽光発電業	直接50.0	役務の提供組合員兼務	資金の回収	14	短期貸付金	60
							受取利息	7	長期貸付金	526

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等、資金の貸付については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

種類	会社等の名称又は名前	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
関連会社	佐用・IDECメガソーラー有限責任事業組合	兵庫県佐用郡	300	太陽光発電業		工事受注	設備工事の請負	1,271		
子会社 の役員 の親近者 所有の 会社	(株)アーサーバイオ	大阪市	10	技術提供業		業務の委託契約	業務の委託料の支払	18		

(注) 1 上記取引金額には、消費税等が含まれておりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方法等

上記取引条件の決定にあたっては、一般の取引条件と同様に決定しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	
1株当たり純資産額	959円56銭	1株当たり純資産額	1,062円53銭
1株当たり当期純利益	49円14銭	1株当たり当期純利益	69円45銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	48円99銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	69円30銭

(注) 算定上の基礎

1. 1株当たり当期純利益又は純損失及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益

科目	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
連結損益計算書上の当期純利益 (百万円)	1,456	2,096
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,456	2,096
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	29,642,534	30,183,929
当期純利益調整額(百万円)		
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 の算定に用いられた普通株式増加数の 主要な内訳(株)		
新株予約権	93,069	63,953
普通株式増加数(株)	93,069	63,953
希薄化効果を有しないため、潜在株式 調整後1株当たり当期純利益の算定に 含まれなかった潜在株式の概要		

2. 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
連結貸借対照表の純資産の部合計額 (百万円)	29,029	32,345
普通株式に係る純資産額(百万円)	28,801	32,121
差額の主な内訳(百万円)		
新株予約権	61	14
少数株主持分	166	209
普通株式の発行済株式数(株)	38,224,485	38,224,485
普通株式の自己株式数(株)	8,213,744	7,992,853
1株当たり純資産額の算定に 用いられた普通株式の数(株)	30,014,841	30,231,632

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
株式会社 コーネット	第2回物上担保付 普通社債	平成24年 8月27日		50	0.7	無担保社債	平成29年 8月25日

(注) 1 株式会社コーネットは第1四半期末から、連結子会社に含めております。

2 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
		50		

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	5,897	6,310	0.29	
1年以内に返済予定の長期借入金	83	192	0.98	
1年以内に返済予定のリース債務	127	100		
長期借入金(1年以内に返済予定 のものを除く。)	25	208	0.54	平成29年6月30日
リース債務(1年以内に返済予定 のものを除く。)	132	155		平成28年4月30日 平成32年3月31日
その他有利子負債 取引保証預り金(1年以内)	650	601	3.0	
合計	6,916	7,567		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を計上しておりますので「平均利率」については、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金		208		
リース債務	71	44	27	11

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	9,270	21,031	31,712	42,173
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (百万円)	496	1,566	2,491	3,155
四半期(当期)純利益 金額 (百万円)	191	1,029	1,635	2,096
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	6円36銭	34円15銭	54円22銭	69円45銭

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	6円36銭	27円79銭	20円07銭	15円23銭

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,058	3,456
受取手形	1 329	1 423
売掛金	1 4,722	1 5,174
商品	327	644
製品	1,224	1,447
原材料	1,399	1,360
仕掛品	626	601
貯蔵品	61	85
前払費用	139	151
繰延税金資産	383	428
関係会社短期貸付金		310
未収入金	420	471
支給材料未収入金	1 271	1 253
その他	32	16
貸倒引当金	60	60
流動資産合計	12,936	14,762
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,207	6,948
構築物	225	217
機械及び装置	528	1,026
車両運搬具	2	13
工具、器具及び備品	718	579
土地	6,929	6,929
リース資産	237	230
建設仮勘定	274	228
有形固定資産合計	16,122	16,174

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	357	265
リース資産	3	0
その他	15	17
無形固定資産合計	376	283
投資その他の資産		
投資有価証券	713	913
関係会社株式	2,447	2,856
関係会社出資金	649	642
従業員に対する長期貸付金	3	3
関係会社長期貸付金	823	759
繰延税金資産	265	28
差入保証金	305	253
保険積立金	91	109
その他	8	9
貸倒引当金	269	219
投資その他の資産合計	5,038	5,357
固定資産合計	21,538	21,816
資産合計	34,474	36,578
負債の部		
流動負債		
支払手形	327	168
買掛金	1 3,037	1 1,954
電子記録債務		1,359
短期借入金	5,800	5,800
関係会社短期借入金	514	962
1年内返済予定の長期借入金	83	25
リース債務	124	97
未払金	727	905
未払費用	869	918
未払法人税等	52	428
未払消費税等	133	4
預り金	712	654
その他	33	28
流動負債合計	12,415	13,307
固定負債		
長期借入金	25	
リース債務	129	150
退職給付引当金	1,070	747
役員退職慰労引当金	57	57
資産除去債務	57	76
長期未払金	132	63
固定負債合計	1,471	1,095
負債合計	13,887	14,403

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金		
資本準備金	5,000	5,000
その他資本剰余金	4,722	4,721
資本剰余金合計	9,722	9,721
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	768	794
繰越利益剰余金	6,906	8,169
利益剰余金合計	7,674	8,964
自己株式	7,045	6,859
株主資本合計	20,408	21,882
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	117	277
評価・換算差額等合計	117	277
新株予約権	61	14
純資産合計	20,586	22,175
負債純資産合計	34,474	36,578

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
売上高	1 24,293	1 25,206
売上原価	1 14,293	1 14,960
売上総利益	9,999	10,246
販売費及び一般管理費	1、2 9,403	1、2 9,306
営業利益	596	940
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 1,046	1 1,053
為替差益	153	283
受取手数料	1 171	1 209
受取賃貸料	1 90	1 87
その他	1 42	1 61
営業外収益合計	1,504	1,695
営業外費用		
支払利息	1 58	1 41
減価償却費	52	48
支払補償費		26
その他	1 16	1 15
営業外費用合計	127	132
経常利益	1,973	2,503
特別利益		
固定資産売却益	4	2
退職給付制度終了益	95	
新株予約権戻入益		26
特別利益合計	100	28
特別損失		
固定資産売却損	10	
減損損失	211	30
固定資産廃棄損	23	1
特別損失合計	245	31
税引前当期純利益	1,828	2,500
法人税、住民税及び事業税	298	542
法人税等調整額	109	10
法人税等合計	408	552
当期純利益	1,419	1,947

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	固定資産 圧縮積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	10,056	5,000	4,690	9,690	768	6,371	7,139
当期変動額							
剰余金の配当						884	884
当期純利益						1,419	1,419
自己株式の取得							
自己株式の処分			31	31			
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）							
当期変動額合計			31	31		535	535
当期末残高	10,056	5,000	4,722	9,722	768	6,906	7,674

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	7,519	19,367	7	7	64	19,439
当期変動額						
剰余金の配当		884				884
当期純利益		1,419				1,419
自己株式の取得	0	0				0
自己株式の処分	473	505				505
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			109	109	3	106
当期変動額合計	473	1,040	109	109	3	1,147
当期末残高	7,045	20,408	117	117	61	20,586

当事業年度(自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	10,056	5,000	4,722	9,722	768	6,906	7,674
会計方針の変更による累積的影響額						245	245
会計方針の変更を反映した当期首残高	10,056	5,000	4,722	9,722	768	7,151	7,920
当期変動額							
剰余金の配当						903	903
税率変更による積立金の調整額					26	26	
当期純利益						1,947	1,947
自己株式の取得							
自己株式の処分			1	1			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計			1	1	26	1,017	1,043
当期末残高	10,056	5,000	4,721	9,721	794	8,169	8,964

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	其他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	7,045	20,408	117	117	61	20,586
会計方針の変更による累積的影響額		245				245
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,045	20,653	117	117	61	20,832
当期変動額						
剰余金の配当		903				903
税率変更による積立金の調整額						
当期純利益		1,947				1,947
自己株式の取得	0	0				0
自己株式の処分	187	186				186
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			160	160	47	113
当期変動額合計	186	1,229	160	160	47	1,342
当期末残高	6,859	21,882	277	277	14	22,175

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のある有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のない有価証券

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

3. デリバティブの評価方法

時価法

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。

耐用年数は以下のとおりであります。

建物	8～38年
構築物	10～20年
機械及び装置	7～17年
車両運搬具	4～6年
工具、器具及び備品	2～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

(イ) 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

(ロ) 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間（12年～13年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間（12年～15年）による定額法により、翌事業年度から費用処理することとしております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

7. 消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準等」の適用

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。）を当事業年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当事業年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当事業年度の期首の退職給付引当金が381百万円減少し、繰越利益剰余金が245百万円増加しております。なお、当事業年度の営業利益、経常利益、税引前当期純利益、1株当たり純資産、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益への影響は軽微であります。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で 当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
短期金銭債権	2,160百万円	2,435百万円
短期金銭債務	417 "	327 "

2 保証債務

前事業年度 (平成26年3月31日)		当事業年度 (平成27年3月31日)	
I D E C システムズ& コントロールズ株式会社	百万円	I D E C システムズ& コントロールズ株式会社	280百万円
株式会社コーネット	"	株式会社コーネット	595 "
IDEC CORPORATION	98 "	IDEC CORPORATION	"
計	98百万円	計	875百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	4,725百万円	5,521百万円
仕入高	1,972 "	2,808 "
その他の営業取引	515 "	707 "
営業取引以外の取引	1,643 "	1,288 "

2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は下記のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
販売費		
給与手当	1,137百万円	1,032百万円
賞与	246 "	227 "
退職給付費用	97 "	142 "
福利厚生費	254 "	183 "
減価償却費	69 "	76 "
賃借料	137 "	136 "
手数料	124 "	118 "
一般管理費		
給与手当	1,602 "	1,677 "
賞与	269 "	280 "
退職給付費用	139 "	268 "
福利厚生費	358 "	244 "
減価償却費	644 "	588 "
賃借料	274 "	277 "
手数料	456 "	423 "
研究開発費	1,989 "	2,085 "

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載していません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
子会社株式	2,447	2,856
計	2,447	2,856

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	13百万円	42百万円
たな卸資産	96 "	135 "
貸倒引当金	117 "	90 "
有形固定資産	42 "	42 "
投資有価証券	28 "	40 "
関係会社株式	44 "	40 "
未払費用	226 "	236 "
退職給付引当金	381 "	281 "
資産除去債務	20 "	25 "
その他	215 "	96 "
繰延税金資産小計	1,187百万円	1,031百万円
評価性引当額	210 "	204 "
繰延税金資産合計	976百万円	826百万円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	273百万円	247百万円
資産除去債務に対応する 資産除去費用	4 "	10 "
その他有価証券評価差額金	49 "	110 "
繰延税金負債合計	328 "	368 "
繰延税金資産純額	648百万円	457百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	38.0%	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.0%	1.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	20.6%	14.1%
住民税均等割	2.6%	1.8%
税率変更による期末繰延税金 資産の減額修正	2.0%	1.8%
評価性引当金	0.2%	0.6%
試験研究費の特別控除	4.0%	5.2%
その他	0.4%	0.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22.4%	22.1%

3. 法人税率等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する法律」が平成27年3月31日に交付されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.02%、平成28年4月1日以降のものについては32.22%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が32百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が44百万円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	7,207	240	0	498	6,948	8,316
	構築物	225	23	1	32	217	589
	機械及び装置	528	677	2	176	1,026	3,885
	車両運搬具	2	16		5	13	57
	工具、器具及び備品	718	190	0	328	579	8,017
	土地	6,929				6,929	
	リース資産	237	128	7	128	230	264
	建設仮勘定	274	302	347 (30)		228	
	計	16,122	1,579	358	1,169	16,174	21,131
無形固定資産	ソフトウェア	357	65		157	265	2,333
	リース資産	3			2	0	12
	その他	15	2		0	17	16
	計	376	67		160	283	2,362

(注) 1 主な増加の内容は次のとおりであります。

機械及び装置：大津発電所 257百万円、茨木発電所 192百万円、尼崎発電所 80百万円

2 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	330	16	65	280
役員退職慰労引当金	57			57

(2) 【主な資産及び負債の内容】

主な資産及び負債の内容については、連結財務諸表を作成しているため注記を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	「当会社の公告は、電子公告とする。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。」旨を定款に定めております。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の確認書	事業年度 (第67期)	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日	平成26年6月16日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書	事業年度 (第67期)	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日	平成26年6月16日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書、 四半期報告書の確認書	第68期 (第1四半期)	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	平成26年8月8日 関東財務局長に提出
	第68期 (第2四半期)	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	平成26年11月7日 関東財務局長に提出
	第68期 (第3四半期)	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	平成27年2月13日 関東財務局長に提出
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条 第2項第9号の2(株主総会における議決権 行使の結果)の規定に基づく臨時報告書		平成26年6月20日 関東財務局長に提出
	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条 第2項第2号の2(新株予約権の発行)の規 定に基づく臨時報告書		平成26年6月20日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年 6月16日

I D E C 株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 姫 岩 康 雄

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成 本 弘 治

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているI D E C 株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、I D E C 株式会社及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、I D E C 株式会社の平成27年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、I D E C 株式会社が平成27年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年6月16日

I D E C 株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 姫 岩 康 雄

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成 本 弘 治

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているI D E C 株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第68期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、I D E C 株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。